

4 希少な植物群落

「COP10」すなわち「生物多様性条約第10回締約国会議」が開かれた2010年は、生物多様性の重要性が改めて認識された年であった。かつては自然度の高い原生的な自然に注目が集まったが、最近では人と自然とが折り合いをつけて保たれてきた里山などの二次的自然についても、持続可能性と生物多様性の両面から価値が認められてきている。開発の前に行なう環境アセスメントなどにおいても、希少動植物の保護増殖あるいは野生復帰などを行なう際にも、生態系あるいは自然環境の指標として植物群落の調査が用いられている。このような時代に、保護すべき植物群落を明確にしていくことは、ますます重要になっている。

埼玉県内における植物群落の研究は、1960年代後半～1970年代、埼玉大学の永野巖教授の研究室を中心に盛んになった。初の体系的な把握は1978年、環境庁（当時）からの委託により県が実施した第2回自然環境保全基礎調査である。学術的に重要な群落や保護の必要な群落が特定植物群落に選定され、植物社会学的調査が行われた。1996年には『植物群落レッドデータ・ブック』が刊行され、日本全国で7,492件、埼玉県からは88件の群落が掲載された。さらに、『埼玉県レッドデータブック 2005植物編』では、これらの群落を中心に、消滅のおそれのある植物群落として367件が市町村ごとに掲載された。

今回、『埼玉県レッドデータブック 2011植物編』では、これまでの知見をもとに県内の重要な植物群落を抽出し、体系的に整理してタイプごとに掲載することで、保護上重要な植物群落の理解と今後の保全管理の指針となることを目指した。『埼玉県レッドデータブック 2005植物編』に掲載されている群落のうち方形枠法による植生調査を実施しているものは少ないため、今回は暫定的に調査団員により現地確認を実施し、特記すべき事項は各群落の詳細解説の中に盛り込んだ。

植物群落を保全することは、そこに生育する植物だけでなく、そこに生息する動物群も含めたバランスを良い状態に保つことであり、生物多様性そのものを守ることを意味する。また、その場所の環境や立地、長い時間かけて成立してきたその場所の歴史も含めて尊重することでもある。近年、環境の変化や遷移の進行、外来種の侵入、野生動物の食害などにより、相観はそれほど変化していなくても、その構成種に大きな変化が生じている場所が数多くある。今後は、県内の重要な植物群落については植物社会学的植生調査を定期的に行ない状態を把握することが必要であり、環境省で整備している現存植生図とあわせて質および量の経年変化を明らかにしながら、効果的な保全が行われることが望まれる。

(1) 埼玉県の植物群落

埼玉県は日本列島のほぼ中央に位置し、水平的気候区分の冷温帯域と暖温帯域が交錯している地域でもある。したがって低山地では落葉樹も常緑樹も混在しているのが特徴である。埼玉県の地形は埼玉平野の低地から西方の山岳地域に至るまで標高差が大きく、このような垂直的地形の変化に応じて成立する森林は暖温帯林から亜寒帯林（亜高山帯林）まで漸次的に移り変わる。

埼玉県の暖温帯域の範囲は、県南部の山地においては標高約 550m 以下、県北部では標高約 250m 以下の山地と丘陵および台地・低地である。この地域には質的に多様な森林群落が認められる。すなわち、極相林にはスダジイ林・ウラジログシ林・アカガシ林・モミ林（ヒサカキ型）・アラカシ林（ヒサカキ型）・シラカシ林・ケヤキーミズキ林があり、二次林としてはアカマツ林（ヒサカキ型）・コナラ林（ヒサカキ型）・アカシデーイヌシデ林・ハンノキ林・河川ヤナギ低木林、植林のクヌギ林・スギーヒノキ林・竹林があげられる（永野 1986）。しかし、今日ではこれらの森林（照葉樹林）の多くは社寺林を除き消滅し、西部山地や丘陵地に発達していた農用林や武蔵野の雑木林もそのほとんどは失われている。

埼玉県は関東地方の内陸部であるため、暖温帯林と冷温帯林の間に内陸性気候下の特異な森林帯として中間温帯林がある。中間温帯林の成立域は県西南部山地では標高約 550m から標高約 640m まで、県西北部山地では標高約 250m から標高約 670m までと分布の中は南部で狭く北部で広い。したがってこの中間温帯は東京都側では高尾山付近で消え、周辺山地は暖温帯要素と冷温帯要素の混生帯となっている。一方、北関東側では葛生山地で消滅し、以東の山地ではやはり混生帯になる。このように内陸性気候下の特徴をもつ中間温帯の範囲は埼玉県では秩父盆地とそれをとりまく周縁の山々である。中間温帯林の中核はモミ林であるが、構成種に暖温帯要素を欠く一方、冷温帯要素との共通種によって構成されているのが特徴である。すなわち典型的なモミ林はヤマツツジ型で、地形によってその上限は標高約 800m まで上昇し、冷温帯下部まで広く成立している。中間温帯の極相林はモミ林のほかアラカシ林（ミツバツツジ型）・ケヤキーヤマシバカエデ林・アカマツ林（ミツバツツジ型）・コナラ林（ミツバツツジ型）、二次林はアカマツ林（ヤマツツジ型）・コナラ林（ヤマツツジ型）・オニグルミ林・カラスザンショウ林、ほかに植林のスギーヒノキ林がある。

このような中間温帯の上部には冷温帯が広がり、その上限は標高約 1,600m 付近である。それに対し下限は県西南部山地で標高約 640m、県西北部山地では標高約 670m である。冷温帯に発達する代表的な極相林はブナ林であり、その垂直的広がりに関して永戸・島井（1998）は飯能市の子の山からイヌブナを含む壮齢なブナ林（標高 605m）を報告し、さらに飯能市の顔振峠において各階層にブナを伴うアカガシ林（標高 520m）を報告した（永戸・島井 1999）。その結果、外秩父山地におけるブナ林の分布の下限は従来よりもやや下降していることになり、モミを混えたアカガシやシラカシの混生林も近隣に目立つことから、秩父盆地を中心とする中間温帯域の広がり、さらに調査を加えた上で修正したい。一般的にブナ林は土壌の発達が良い山腹に成立するが、急傾斜で表土の浅い地域にはイヌブナ林が分布している。今日では各地のブナ林は広大な面積にわたって伐採され、その跡地は植林・二次林・ササ草原に変貌した。しかし、奥秩父山地東端に位置する大持山（1,294m）の稜線上には小規模ながら往時を偲ばせる壮齢なブナ林が残り、貴重な森林となっている（島井・永戸 2010）。ツガ林も冷温帯の極相林で、分布の上限は標高約 1,600m 付近であるが、下限は秩父市大野原（標高約 250m）にも見られるように分布の巾が大きい。ツガ林の典型的な林分は東京大学秩父演習林内で見ることができる。そのほか極相林としてはヒノキ林・シオジ林・サワラ林・ヤマグルマ林があり、二次林にはミズナラ林・フサザクラ林がある。

奥秩父の原始林とも言われてきた秩父山地亜寒帯針葉樹林のうち、主としてコメツガ林は中津川源流域や豆焼沢、大洞川流域などですでに伐採され、冷温帯域と同様にササ草原や植林に変えられている。亜寒帯針葉樹林の垂直的な広がりには標高約 1,600m から三宝山（2,483m）まで約 880m の標高差がある。この亜寒帯は標高約 2,000m 付近で大別されて下部にコメツガ帯、上部にシラビソ・オオシラビソ帯が広がる。亜寒帯下部に広がるコメツガ林の林床はコケ型・シダ型・

ササ型・裸地型の4つに類型化され、それぞれコメツガの更新に関係している。そのうちコケ型の林床は地上更新、シダ型やササ型は倒木上更新、裸地型は季節風や積雪の影響から更新が阻害される傾向がある。一方、三宝山(2,483m)や甲武信岳(2,475m)のような亜寒帯上部にはシラビソ・オオシラビソ林が分布するが、とくにオオシラビソを優占種とする林分では天然更新の様式である縞枯現象が認められる。亜寒帯の極相林にはウラジロモミ林・クロベ-ヒメコマツ林・ハコネコメツツジ矮性低木林があり、二次林としてはカラマツ林・ダケカンバ林がある。

このように埼玉県は水平的にも垂直的にも変化に富んだ地形と、特有の気候の影響を受けてさまざまな植生が成立している。そして埼玉県の暖温帯から亜寒帯までの各地に分布している石灰岩地の存在は植生の多様性をさらに特徴づけている。すなわち、石灰岩という特異な基盤条件を反映して生態的特徴を示す群落や多くの固有種・遺存種が確認されている。しかし、今日では武甲山(1,304m)をはじめ石灰岩地の多くは採掘が進み、固有の植生は次々失われている。埼玉県の石灰岩地帯で認められた極相林としてはアラカシ林(暖温帯)・イワシモツケ矮性低木林(冷温帯~亜寒帯)・チチブミネバリ亜高木林(冷温帯~亜寒帯)・ウラジロガシ林(中間温帯)・イヌブナ林(冷温帯)・ツガ林(冷温帯)・シオジ林(冷温帯)・アサダ林(中間温帯~冷温帯)・ケヤキ林(冷温帯)・アカシデ林(冷温帯)・コメツガ林(亜寒帯)があげられ、二次林にはミズナラ林(冷温帯)・フサザクラ林(冷温帯)・オニグルミ林(中間温帯~冷温帯)・キブシ低木林(中間温帯)などがある。

埼玉県の植物群落には、これら森林群落以外にも岩角地・風衝地、河川流域の水辺、そのほか路傍・林縁などに多様な草本群落が持続的に成立している。

【選定方法】

既存文献のうち、県内の重要な植物群落を網羅的に扱っている以下の3つの文献から、植物群落を選定した。

1. 『第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』(環境庁自然保護局編 1978)
2. 『植物群落レッドデータ・ブック』(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編 1996)
3. 『改訂・埼玉県レッドデータブック 2005 植物編』(埼玉県環境防災部みどり自然課編 2005)

これに加え、論文などで報告があり重要と考えられる群落も取り上げた。群落の選定にあたっては、「特定植物群落」の選定基準であるA~Hに、さらに地域の状況を加味したIの項目を追加した計9項目に基づいて選定した。

- A: 原生林もしくはそれに近い自然林
- B: 国内若干地域に分布するが、極めて希な植物群落または個体群
- C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E: 郷土景観を代表する植物群落で、とくにその群落の特徴が典型的なもの
- F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G: 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群
- H: その他、学術上重要な植物群落または個体群
- I: 歴史・宗教・文化や生業と関わり、長きにわたり地域の人々に親しまれてきた植物群落または個体群

以上の結果、埼玉県における保護上重要な植物群落として78群落(338件)が選定された。これらの中には、古い調査データによるものも含まれるため、増減や貴重性などの評価は行なわなかった。また既に消滅している群落も含まれているが、記録に残すため掲載してある。当該群落には「消滅」と付してある。

【掲載項目】

① 単一群落と群落複合

『植物群落レッドデータ・ブック』に従い、最上層の優占種で示すことができる「単一群落」と、複数の群落からなる「群落複合」の、2つのカテゴリーを設けた。『埼玉県レッドデータブック2005植物編』では、早春植物群落をはじめとする希少草本植物の群落が掲載されていたが、これらは上位の木本群落の構成種の1つであることが多いこと、既に本書の種の解説の中で生育地についても言及されていることなどから、今回は取り扱われないものもある。

② 群落のタイプ区分

「単一群落」と「群落複合」は『植物群落レッドデータ・ブック』のタイプ分けに準じて区分した。「単一群落」については『植物群落レッドデータ・ブック』で用いられているコード番号を付した。群落名にコード番号がないものは、新たに加わった群落である。

③ 名称

「単一群落」については、最上層の優占種名を用いて群落名とした。「群落複合」については、原則として『特定植物群落調査報告書』および『埼玉県レッドデータブック植物編2005』に記載されている名称を使用した。一部改めたものもある。

④ 選定理由

選定のもとになった下記の文献を示した。

- ・「特定植物群落」：第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（環境庁自然保護局編1978）
- ・「国RDB」：植物群落レッドデータブック（日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編1996）
- ・「RDB2005」：改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編（埼玉県環境防災部みどり自然課編2005）
- ・「既報告」：その他論文等。具体的な著者名と発表年は「⑨ 特記事項」に記入した。

⑤ 県内の分布

選定群落の分布する気候帯や成立している立地について記入した。

⑥ 選定群落の件数と所在地

報告された選定群落の市町村名および件数を示した。

⑦ 選定群落の概要

既存の植生調査表などを参考にして、選定群落の相観や種構成について紹介した。ただし、最新の調査データに基づかないものも含まれており、必ずしも現状を示してはいない。

⑧ 保全地域等

行政上の保護区域・文化財指定・ナショナルトラストなどにより、保護の網がかかっているかを示し、選定群落の一部が保全地域等に該当する場合も示した。掲載した項目は天然記念物、自然公園、自然環境保全地域などである。

⑨ 特記事項

群落の重要性や保護の必要性などを記入した。「④ 選定理由」のなかで「既報告」と記された文献は、著者名と発表年を示した。具体的な文献の詳細については、参考文献一覧を参照。また、「特定植物群落」と「国RDB」に掲載されている群落の情報は、名称・所在地および群落番号を記入した。複合による群落のうちの個々の群落については「群落複合」の項を参照する旨、「→」により示した。

《単一群落》

常緑広葉高木林 (03)

アカガシ群落 (03001)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

西南部山地の暖温帯上部に限定的に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 飯能市

【選定群落の概要】

飯能市顔振峠の群落では高木層は高さ 17m、植被率 90%でアカガシが優占し（被度 4）、ウラジロガシ・ヒノキなどをともなう。亜高木層は高さ 8.5m、植被率 35%でアセビが優占し（被度 2）、アカガシ・ウラジロガシ・イヌツゲ・ヒサカキなどをともなう。第 1 低木層は高さ 4.5m、植被率 30%でアカガシが優占し（被度 2）、モミ・ウラジロガシ・アオハダ・リョウブなどをともない、第 2 低木層は植被率 60%でシラキ・コアジサイ・アカガシ・ウラジロガシ・ヒサカキ・ミヤマシキミなどをともなう。草本層は植被率 10%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・ヒメカンスゲなどがみられる。

【特記事項】

埼玉県では重要な森林の一つであり、安定した群落として維持させるためには、周囲の植林地も含めて広域的に保護する必要がある。その後、顔振峠の群落ではブナの混生が確認され（永戸・島井 1999）、暖温帯と冷温帯の推移帯の群落として注目される。

文献：永戸（1978）、永野（1986）、永戸・島井・他（1988）

「顔振峠のアカガシ林」（飯能市）：特定植物群落（34）、国 RDB（11030）

アラカシ群落 (03005)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯にかけて分布する。一般に沢や溪谷に面した南向きの岩壁面や極めて表土の浅い岩角地および山頂などである。

【選定群落の件数と所在地】

21件 日高市、飯能市、鳩山町、ときがわ町、嵐山町、滑川町、本庄市、神川町、長瀬町、皆野町、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

鳩山町の群落では高木層は高さ 12m、植被率 80%でアラカシが優占し（被度 4）、スダジイなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 40%でアラカシが優占し（被度 3）、ウリカエデ・アオダモなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3.5m、植被率 95%でアラカシが優占し（被度 5）、コバノガマズミ・オトコヨウゾメ・モミ・ツクバネガシなどをともない、第 2 低木層は植被率 45%でアラカシ・ヒサカキ・オトコヨウゾメ・ムラサキシキブなどをともなう。草本層は植被率 1%でジャノヒゲがみられる。長瀬町・皆野町の群落では高木層は高さ 15m、植被率 40%でアラカシが優占し（被度 4）、コナラ・ネムノキなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 60%でアラカシが優占し（被度 3）、リョウブ・エゴノキ・コナラなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 40%でアラカシが優占し（被度 2）、ツクバネウツギ・ネジキ・エゴノキ・リョウブなどをともない、第 2 低木層は植被率 10%でミツバツツジ・シモツケ・アラカシなどをともなう。草本層は植被率 5%でジャノヒゲ・ヤマイタチシダ・ヤブランなどがみられる。

【保全地域等】

県指定天然記念物「伊古乃速御玉姫神社社叢」。県立自然公園特別地域

【特記事項】

暖温帯のアラカシ林の構成種はモミ林との共通種が多いことが特徴である。

文献：永戸・永野（1978）、永野（1986）、永戸・島井・他（1989）

「泉井神社の社寺林」（鳩山町）：特定植物群落（18）、国 RDB（11017）

「イシリヤツのアラカシ林」（日高市）：特定植物群落（25）（消滅）、国 RDB（11024）

「諏訪神社のアラカシ林」（飯能市）：特定植物群落（27）（消滅）、国 RDB（11026）

「井戸山の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「八徳のアラカシ林」（飯能市）：特定植物群落（33）、国 RDB（11029）

ウラジログシ群落（03011）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯に分布する。飯能市、ときがわ町、越生町、毛呂山町、秩父市などの西南部山地の急傾斜地に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

5件 飯能市、東松山市、秩父市

【選定群落の概要】

飯能市の群落では高木層は高さ 17m、植被率 90% でウラジログシが優占し（被度 5）、イロハモミジなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 20% でウラジログシが優占し（被度 1）、ヤブツバキ・シキミなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 60% でヤブツバキが優占し（被度 3）、アオキ・ウラジログシ・シキミ・コバノガマズミ・ダンコウバイなどをともない、第 2 低木層は植被率 30% でヤブツバキ・ヒサカキ・ヤブコウジ・シキミ・アオキなどをともなう。草本層は植被率 7% でベニシダ・マメツタなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ 18m、植被率 75% でウラジログシが優占している（被度 5）。亜高木層は高さ 11m、植被率 35% でサワシバが優占し（被度 3）、ウラジログシ・フサザクラなどをともなう。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 45% でヤブムラサキが優占し（被度 1）、ウラジログシ・ツクバネウツギ・サワシバ・ニシキギ・キブシなどをともない、第 2 低木層は植被率 30% でヤブムラサキ・ウラジログシ・ヤブコウジ・スズタケ・ヤマブキなどをともなう。草本層は植被率 60% でジャノヒゲ・ヤマイトチシダ・クマワラビ・イノモトソウ・ツルデンダなどがみられる。

【保全地域等】

県指定天然記念物「南川のウラジログシ林」

【特記事項】

「橋立鍾乳洞のウラジログシ林」は、県内では最も内陸部に位置し、中間温帯域に成立する林分であって極めて重要な存在である。基盤は石灰岩であり表土をほとんどともなっていない。調査区外にはアラカシ・アサダ・カヤなどが多い。

文献：永野・大垣・他（1974・1976）、永野（1986）

「岩殿観音の社寺林」（東松山市）：特定植物群落（17）、国 RDB（複合 11001）

「都幾川村多武峯神社のツクバネガシーウラジログシ林」（ときがわ町）：特定植物群落（31）、国 RDB（11028）

「富士浅間神社の社寺林」（飯能市）：特定植物群落（35）、国 RDB（11031）

「大坐祇神社の社寺林」（飯能市）：特定植物群落（37）、国 RDB（11033）

「龍泉寺の社寺林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「橋立鍾乳洞のウラジログシ林」（秩父市）：特定植物群落（42）、国 RDB（11036）

シラカシ群落（03029）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯にかけて分布する。

【選定群落の件数と所在地】

24件 川口市、さいたま市、富士見市、入間市、飯能市、八潮市、春日部市、上尾市、蓮田市、加須市、皆野町、神川町、秩父市

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層は高さ23m、植被率50%でシラカシが優占し（被度4）、亜高木層は高さ15m、植被率60%でヤブツバキが優占し（被度2）、ムクノキ・シラカシ・ヒサカキなどをともなう。第1低木層は高さ4m、被率50%でシロダモが優占し（被度2）、シラカシ・アオキ・ムクノキ・ヤブツバキ・ムラサキシキブなどをともない、第2低木層は植被率16%でシラカシ・アオキ・ウコギ・マダケ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率17%でジャノヒゲ・ミズヒキなどがみられる。神川町の群落では高木層は高さ12m、植被率70%でシラカシが優占し（被度4）、亜高木層は高さ8m、植被率23%でシラカシが優占し（被度1）、ヤブツバキ・アラカシ・イロハモミジなどをともなう。第1低木層は高さ4m、植被率13%でヒサカキが優占し（被度1）、ヤブツバキ・アオキなどをともない、第2低木層は植被率20%でアオキ・シラカシ・アラカシ・ヤブツバキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率8%でヤブラン・ヒメヤブラン・ベニシダなどがみられる。

【保全地域等】

県立上武自然公園特別地域。大宮市緑地保存地区

【特記事項】

成立域の立地条件によって山地および丘陵の乾性立地型と、埼玉平野に広域的に分布している湿性立地型に分けられる。

文献：永野（1986）、永戸・島井・他（1989）、島井・永戸（1997・1999）

「熊野神社の社寺林」（さいたま市）：特定植物群落（7）、国RDB（11007）

「西山新田のシラカシ林」（さいたま市）：特定植物群落（12）（消滅）、国RDB（11012）

「与野市月読神社の社寺林」（さいたま市）：特定植物群落（13）（消滅）、国RDB（11013）

「金鑽神社の社寺林」（神川町）：特定植物群落（28）

スダジイ群落（03032）

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯に分布する。西南部山地、丘陵および台地の急傾斜地などである。

【選定群落の件数と所在地】

16件 川口市、越谷市、さいたま市、毛呂山町、飯能市、越生町、鳩山町、小川町

【選定群落の概要】

越谷市の群落では高木層は高さ13m、植被率70%でスダジイが優占している（被度4）。亜高木層は高さ8m、植被率20%でスダジイが優占し（被度1）、サワラなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率10%でシロダモが優占し（被度1）、アオキ・スダジイ・ヤブツバキ・タブノキなどをともない、第2低木層は植被率20%でアオキ・シロダモ・スダジイ・シュロなどをともなう。草本層は植被率20%でジャノヒゲがみられる。越生町の群落では高木層は高さ16m、植被率90%でスダジイが優占している（被度5）。亜高木層は高さ10m、植被率30%でスダジイが優占し（被度3）、モチノキ・アラカシなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率40%でスダジイが優占し（被度2）、ヒサカキ・アラカシ・ヒイラギ・サカキ・タブノキ・アオダモ・クロモジ・オトコヨウゾメなどをともない、第2低木層は植被率5%でアラカシ・モチノキ・スダジイ・ヤブツバキ・ヒイラギ・タブノキ・モミ・ヤマツツジ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率15%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・シュンラン・ベニシダ・ヤマイタチシダなどがみられる。

【保全地域等】

県指定天然記念物「梅園神社のスタジイ林、下里のスタジイ林」。市指定天然記念物「久伊豆神社社叢」。県立黒山自然公園特別地域

【特記事項】

山地や丘陵に成立するスタジイ林はヤマツツジ・オトコヨウゾメ・クロモジ・アオダモ・モミなどの中間温帯要素をともなっていることが特徴である。

文献：永野（1973・1986）、永戸・島井（1995・2000）、埼玉県文化財保護協会編（1996）

「久伊豆神社の社寺林」（越谷市）：特定植物群落（1）、国 RDB（11001）

「大崎のスタジイ林」（さいたま市）：特定植物群落（4）、国 RDB（11004）

「東内野のスタジイ林」（川口市）：特定植物群落（5）、国 RDB（11005）

「浅間神社のスタジイ林」（さいたま市）：特定植物群落（6）、国 RDB（11006）

「西山崎稲荷神社の社寺林」（さいたま市）：特定植物群落（10）、国 RDB（11010）

「黒石神社の社寺林」（鳩山町）：特定植物群落（20）、国 RDB（11019）

「大高取山のスタジイ林」（越生町）：特定植物群落（21）（消滅）、国 RDB（11020）

「虚空蔵菩薩の社寺林」（越生町）：特定植物群落（22）、国 RDB（11021）

「宿谷の滝のスタジイ林」（毛呂山町）：特定植物群落（23）、国 RDB（11022）

「鎌北湖のスタジイ林」（毛呂山町）：特定植物群落（24）、国 RDB（11023）

タブノキ群落 (03033)

【選定理由】

特定植物群落、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯に分布する。西南部山地の山腹に発達する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 毛呂山町、越生町

【選定群落の概要】

毛呂山町の群落では高木層は高さ 20m、植被率 95%でタブノキが優占し（被度 3）、スタジイ・アラカシ・モチノキ・エノキなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 60%でモチノキが優占し（被度 3）、カヤ・ヤブツバキ・サカキ・シロダモなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 70%でヤブツバキが優占し（被度 3）、スタジイ・シュロ・タブノキ・アラカシ・モチノキなどをともない、第 2 低木層は植被率 20%でタブノキ・アラカシ・ヤブツバキ・チャノキ・ナンテン・マンリョウ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率 65%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・ヤマイタチシダなどがみられる。越生町の群落では高木層は高さ 25m、植被率 98%でタブノキが優占し（被度 3）、コナラ・ヤマザクラ・アラカシ・ケヤキ・ウラゲエンコウカエデなどをともなう。亜高木層は高さ 9m、植被率 70%でタブノキが優占し（被度 3）、ウラゲエンコウカエデ・ヤマボウシなどをともなう。第 1 低木層は高さ 6m、植被率 80%でヤブツバキが優占し（被度 3）、アオキ・アラカシ・ヒサカキ・シロダモなどをともない、第 2 低木層は植被率 45%でアオキ・ヤブツバキ・アラカシ・タブノキ・マルバウツギなどをともなう。草本層は植被率 25%でオオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・ヤマイタチシダ・ヤブランなどがみられる。

【保全地域等】

県指定天然記念物「桂木のタブノキ林」、県立黒山自然公園特別地域

【特記事項】

関東地方におけるタブノキ林の分布の中心は沿岸地域であり、本群落は分布の中心域から遠く離れた内陸部山地に成立しており、分布の限界域として重要な林分である。

文献：埼玉県文化財保護協会編（1991）、島井・永戸（1996）

「桂木のタブノキ林」（毛呂山町）：特定植物群落（62）

「麦原のタブノキ林」（越生町）：特定植物群落（63）

ツクバネガシ群落 (03036)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯に分布する。西南部山地の急斜面に発達する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 ときがわ町、飯能市

【選定群落の概要】

ときがわ町の群落では高木層は高さ 20m、植被率 90%でツクバネガシが優占し（被度 4）、タブノキ・アラカシなどをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 30%でツクバネガシが優占し（被度 1）、アラカシ・ヤブツバキ・モチノキ・タブノキなどをともなう。第 1 低木層は高さ 2m、植被率 40%でアラカシが優占し（被度 2）、ツクバネガシ・ヒサカキ・ヤブツバキ・モチノキ・イロハモミジ・アズマネザサ・ウラジロガシなどをともない、第 2 低木層は植被率 25%でモミ・ウラジロガシ・ツクバネガシ・アラカシ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率 1%でベニシダ・ジャノヒゲ・シュンラン・カシワバハグマなどがみられる。飯能市の群落では高木層は高さ 12m、植被率 95%でツクバネガシが優占し（被度 3）、アラカシ・ムクロジ・マルバアオダモ・ウラジロガシなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 70%でアラカシが優占し（被度 3）、ウラジロガシ・ケヤキ・イロハモミジ・リョウブ・アカメガシワなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 60%でアラカシが優占し（被度 2）、ヒサカキ・ウラジロガシ・アセビ・アオキ・ヤブムラサキ・カヤ・ミツバツツジ・ヤマシバカエデなどをともない、第 2 低木層は植被率 10%でアラカシ・ヒサカキ・ヤブコウジ・アオキ・アセビ・カヤ・ウラジロガシなどをともなう。草本層は植被率 3%でヤマイタチシダ・ベニシダ・ジャノヒゲ・オオバノイノモトソウ・フクロシダなどがみられる。

【特記事項】

ツクバネガシは他のカシ類と混生することが多く、単独で優占群落を形成することは少ない。

文献：島井・永戸（2004）

「都幾川村多武峯神社のツクバネガシ-ウラジロガシ林」（ときがわ町）：特定植物群落（31）、国 RDB（11028）

ヤマグルマ群落 (03059)

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯から亜寒帯下部にかけて分布する。一般に空中湿度の高い北向きの岩壁や溪谷沿いの岩角地に点々と成立している。

【選定群落の件数と所在地】

2件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

秩父市の群落では高木層はヤマグルマ・ツガが優占し、亜高木層はヤマグルマ・アセビ・リョウブが優占している。第 1 低木層はアズマシャクナゲ・アセビ・ヒノキ・トウゴクミツバツツジが優占し、リョウブ・コヨウラクツツジ・コミネカエデなどをともない、第 2 低木層はアズマシャクナゲが優占し、アブラツツジ・アセビ・コヨウラクツツジ・トウゴクミツバツツジなどをともなう。草本層はシノブカグマ・コウヤコケシノブ・オサシダなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

急峻な立地を反映して、ツツジ科植物が構成種の中核をなしている。

文献：永野（1986）

「両神山のヤマグルマ林」（秩父市・小鹿野町）：国 RDB（11059）

温帯針葉高木林（05）

アカマツ群落（05001）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯、中間温帯、冷温帯、亜高山帯（亜寒帯）下部に広く分布する。垂直的分布域は広く、東部低地から標高約 1,800m までおよぶ。地形的には平地、傾斜面、尾根、稜線、岩峰に成立しており、適応性が強い。

【選定群落の件数と所在地】

17 件 和光市、新座市、狭山市、飯能市、鶴ヶ島市、東松山市、鳩山町、嵐山町、滑川町、吉見町、久喜市、熊谷市、加須市、長瀨町、皆野町

【選定群落の概要】

加須市の群落では高木層は高さ 25m、植被率 55% でアカマツが優占し（被度 4）、イヌシデをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 25% でアカシデが優占し（被度 2）、イヌシデ・ムクノキ・アカメガシワなどをともなう。第 1 低木層は高さ 5m、植被率 75% でシラカシが優占し（被度 3）、エノキ・ネズミモチ・ムクノキなどをともない、第 2 低木層は植被率 10% でシラカシ・シュロ・ネズミモチなどをともなう。草本層は植被率 5% でジャノヒゲ・ナガバジャノヒゲ・オオバジャノヒゲなどがみられる。東松山市の群落では高木層は高さ 10m、植被率 90% でアカマツが優占し（被度 5）、ヤマザクラをともなう。亜高木層は高さ 6m、植被率 30% でアカマツが優占し（被度 3）、クリをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 80% でヒサカキが優占し（被度 3）、コナラ・ヤマザクラ・ヤマウルシ・ヤマツツジ・ナツハゼ・アオダモ・クリ・ゴンズイ・アセビ・リョウブなどをともない、第 2 低木層は植被率 95% でヒサカキ・ヤマツツジ・アセビ・ヤマウルシ・ナツハゼ・コウヤボウキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率が 25% でチゴユリ・シュンラン・ヒカゲスゲ・ジャノヒゲ・ノガリヤスなどがみられる。

【保全地域等】

県自然環境保全地域

【特記事項】

暖温帯ではヒサカキ優占型、中間温帯ではヤマツツジ優占型のアカマツ林が二次林として成立している。一方、中間温帯から冷温帯の急峻な山稜や岩峰には土地的極相林としてのアカマツ・ミツバツツジ林がみられる。

文献：永戸・永野・他（1978）、永戸（1976・1988）、永野（1986）

「志多見のアカマツ林」（加須市）：特定植物群落（2）、国 RDB（11002）

「五味ヶ谷のアカマツ林」（鶴ヶ島市）：特定植物群落（15）（消滅）、国 RDB（11015）

「高德神社の社寺林」（鶴ヶ島町）：特定植物群落（16）（消滅）、国 RDB（11016）

「井戸山の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「多福寺の平地林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

ウラジロモミ群落（05005）

【選定理由】

既報告

【県内の分布】

冷温帯上部から亜寒帯下部にかけて局所的に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

3 件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

秩父市の群落では高木層は高さ 22～25m、ウラジロモミが優占し、コメツガ・ヒメバラモミ・カラマツ・シナノキなどをともなう。亜高木層は出現せず、低木層はスズタケ・ミヤコザサが出現し、草本層はシラネワラビ・マイヅルソウ・オシダ・タケシマランなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：前田・島崎（1951）、埼玉県編（1980）、永野（1986）

カヤ群落（05006）**【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯下部にかけて分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1 件 飯能市

【選定群落の概要】

この群落の高木層は高さ 12m、植被率 20% でカヤが優占し（被度 2）、亜高木層は高さ 6m、植被率 95% でカヤが優占し（被度 3）、アサダ・フサザクラ・クマシデなどをともなう。第 1 低木層は高さ 2.5m、植被率 60% でクマシデ・ダンコウバイ・コクサギ・アサダ・カヤなどをとまない、第 2 低木層は植被率 25% でヤマブキ・カヤ・コクサギ・アサダ・マルバウツギなどをともなう。草本層は植被率 15% でコバノギボウシ・ヤブレガサ・ジャノヒゲ・シロヨメナなどがみられる。

【特記事項】

特定植物群落「蟬指石灰岩地の森林」では、コクサギ-アサダ群落として記載されている。

文献：永野・立石・他（1980）

「蟬指石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

クロベ群落（05008）**【選定理由】**

既報告

【県内の分布】

冷温帯上部から亜寒帯にかけて分布する。三国峠・十文字峠・三宝山・孫四郎峠など、主として表土の極めて浅い風衝尾根や岩峰に局所的に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

3 件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ 20m でクロベが優占し（被度 4）、コメツガ・ヒノキをともなう。亜高木層はアセビが優占し（被度 3）、サラサドウダンをともなう。低木層はコヨウラクツツジが優占し（被度 4）、草本層はみられない。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：前田・島崎（1951）、永野（1986）

サワラ群落（05011）**【選定理由】**

RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯から亜寒帯下部に分布する。一般にシオジ林よりも高標高の沢に近い湿性の岩壁地に局所的に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

4件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ18mでサワラが優占し、サワグルミ・シオジをともなう。亜高木層でリョウブ、低木層でミツバツツジが優占し、草本層はフジシダが優占し、コカンスゲ・ミヤマクマワラビなどがみられる。

【特記事項】

文献：前田・吉岡（1952）、永野（1986）、埼玉県編（1987）

ツガ群落 (05013)

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

主として冷温帯に分布するが垂直的な分布巾は広く、標高約250m（中間温帯の下限）～1,600mに成立している。尾根筋の表土の浅い乾燥した立地において顕著である。

【選定群落の件数と所在地】

3件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ20m、植被率65%でツガが優占し（被度4）、リョウブをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率65%でアオダモが優占し（被度3）、タカノツメ・リョウブ・コミネカエデなどをともなう。第1低木層は高さ3.5m、植被率85%でオオカメノキとリョウブが優占し、コミネカエデ・タカノツメ・ベニドウダン・アオハダ・ミヤマガマズミ・バイカツツジ・トウゴクミツバツツジ・コシアブラなどをともない、第2低木層は植被率15%でオオカメノキ・コアジサイ・バイカツツジ・ベニドウダン・トウゴクミツバツツジなどをともなう。草本層は植被率が20%でチゴユリ・ハリガネワラビなどがみられる。

【特記事項】

文献：前田・吉岡（1952）、永野・永戸・他（1975）、埼玉県編（1980）、永野（1986）

「妙法岳石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

ヒノキ群落 (05019)

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

主に冷温帯に分布する。垂直的な広がりには標高約500～1,850mで、尾根筋や岩角地に発達するが、なかでも空中湿度の高い北向きの尾根や北斜面の岩角地に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

7件 横瀬町、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では高木層は高さ15m、植被率90%でヒノキ（被度5）が優占している。亜高木層は高さ7m、植被率15%でナガバノヤマグルマ・ハウチワカエデ・ミネカエデ・アラゲアオダモなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率80%でアズマシャクナゲが優占し（被度4）、コヨウラクツツジ・アセビ・タカノツメなどをともなう。第2低木層は植被率50%でアズマシャクナゲ・コヨウラクツツジ・アカヤシオ・チチブドウダンなどをともなう。草本層は植被率が5%でヘビノネゴザがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ15m、植被率98%でヒノキが優占

し（被度5）、ツガ・ヒメコマツなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率60%でネジキが優占し（被度2）、タカノツメ・ツガ・アカマツなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率70%でアセビが優占し（被度3）、ツガ・タカノツメ・シロヤシオなどをともない、第2低木層は植被率95%でツガ・アセビ・ヒカゲツツジ・ヒノキ・トウゴクミツバツツジなどをともなう。草本層はみられない。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

「日室鉦下地帯のヒノキ林」は、鉦化地帯という特殊な基岩上に成立するヒノキ林として重要である。

文献：永戸・永野（1971）、永野・永戸・他（1975）、永野（1986）

「横瀬のヒノキ林」（秩父市）：特定植物群落（39）（消滅）、国RDB（11034）

「女形の天然性ヒノキ林」（秩父市）：特定植物群落（44）、国RDB（11037）

「尾の内沢の天然性ヒノキ林」（小鹿野町）：特定植物群落（46）、国RDB（11038）

「日室鉦化地帯のヒノキ林」（秩父市）：特定植物群落（54）、国RDB（11043）

「両神山のヒノキ林」（秩父市・小鹿野町）：国RDB（11058）

「荒川源流ヒダナ沢のシオジ林とヒノキ林」（秩父市）：国RDB（11066）

モミ群落（05021）

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯の丘陵から標高約800m付近の冷温帯下部に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

10件 飯能市、越生町、鳩山町、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

鳩山町の群落では高木層は高さ23m、植被率85%でモミが優占し（被度5）、亜高木層は欠いている。第1低木層は高さ4m、植被率90%でアラカシが優占し（被度4）、スダジイ・ヒサカキ・ヤブムラサキ・イヌシデ・タブノキなどをともない、第2低木層は植被率30%でアラカシ・ヒイラギ・シラカシ・ヒサカキ・ヤブコウジなどをともなう。草本層は植被率5%でジャノヒゲ・オオバジャノヒゲ・シュンラン・ヤマイタチシダなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ12m、植被率90%でモミが優占し（被度5）、アカマツ・アラカシなどをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率20%でアラカシが優占し（被度3）、ヤマウルシなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率30%でアラカシが優占し（被度2）、ヤダケ・アオハダ・ネジキ・コバノガマズミ・ヤマウルシなどをともない、第2低木層は植被率45%でアラカシ・ヤダケ・ヤブコウジ・コバノガマズミ・ヤマツツジ・アカシデ・アズキナシ・モミなどをともなう。草本層は植被率20%でヒメカンスゲ・ヤブラン・シュンラン・カシワバハグマ・ヌスビトハギなどがみられる。

【特記事項】

「熊井のモミ林」は丘陵に成立しており、地形はなだらかで土壤の発達が良い。高木層は壮齢なモミが多く、相観的にも壮麗である。低木層は過去に人為的な干渉はあるものの、その後の放置によりかなり発達して、良好な群落である。

文献：永野・田地野（1973）、永野（1986）、島井・永戸（2011）

「熊井のモミ林」（鳩山町）：特定植物群落（19）、国RDB（11018）

「黒山のモミ林」（越生町）：特定植物群落（26）、国RDB（11025）

「広見寺の社寺林」（秩父市）：特定植物群落（30）、国RDB（11027）

「龍泉寺の社寺林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「秩父盆地のモミ林」（秩父市・小鹿野町）：国RDB（11060）

「申淵のモミ林」（飯能市）：国RDB（11061）

冷温帯落葉広葉高木林 (06)

アカシデ群落 (06003)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯下部まで分布するが、分布の中心は暖温帯と中間温帯である。台地では斜面林として、山地では表土の浅い急峻な立地に集団を形成している。

【選定群落の件数と所在地】

4件 さいたま市、久喜市、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層はアカシデが優占し、コナラ・イヌシデなどをともなう。亜高木層はアカシデが優占し、アオハダ・エゴノキ・イヌシデなどをともなう。第1低木層はアカシデが優占し、ヒサカキ・シラカシ・エゴノキ・アオハダ・イヌシデなどをともない、第2低木層はアズマネザサ・シラカシ・ヒサカキ・アオキ・コウヤボウキ・シロダモ・ヤマツツジなどをともなう。草本層はチヂミザサ・ジャノヒゲ・ノガリヤス・シュンランなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ15m、植被率70%でアカシデが優占し（被度3）、イヌシデ・サワシバ・ヨグソミネバリなどをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率40%でリョウブが優占し（被度2）、アカシデ・ツガ・モミ・クマシデ・ネジキなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率30%でミツバツツジが優占し（被度2）、アカシデ・ツガ・ヤマツツジなどをともない、第2低木層は植被率10%でミツバツツジ・ヤマツツジ・メツクバネウツギ・コアジサイ・アオダモなどをともなう。草本層は植被率20%でヒカゲスゲ・フクロシダなどがみられる。

【保全地域等】

県指定天然記念物「神明神社の社叢」

【特記事項】

相観的にはアカシデーイヌシデ林として、主として台地から低地にかけての傾斜面に分布している。分布上限にあたる冷温帯の石灰岩地域（二子山）では立地的に劣悪な絶壁面に群落を形成しており、二次林としてよりもむしろ立地的に安定した土地的極相林として維持されている。

文献：埼玉県編（1980）、永野・加藤・他（1982）、永野・佐々木・他（1984）、永野（1986）
「神明神社の社寺林」（菖蒲町）：特定植物群落（3）、国 RDB（11003）

アサダ群落 (06004)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

中間温帯から冷温帯の石灰岩地帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1件 秩父市

【選定群落の概要】

この群落の高木層は高さ13m、植被率80%でアサダが優占し（被度5）、ケンポナシをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率10%でアカシデ・ヤマガキなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率15%でコクサギ・ウツギ・アサダ・ヤマモミジ・ヒメウツギなどをともない、第2低木層は植被率10%でコクサギ・カヤ・スズタケ・ナガバノコウヤボウキなどをともなう。草本層は植被率30%でジャノヒゲ・ヤブレガサ・クマワラビ・ヤブランなどがみられる。コケ層はタチヒラゴケが優占している。

【特記事項】

アサダは孤立木、または数本まとまっているのが普通であって、集団をつくるのは極めて希である。

文献：永野・大垣（1975）

「武甲山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

イヌシデ群落（06009）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯と中間温帯に分布するが、孤立木としては冷温帯下部まで上昇する。

【選定群落の件数と所在地】

7件 川口市、さいたま市、北本市

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層は高さ 10m、植被率 85%でイヌシデが優占し（被度 3）、アカシデ・コナラ・エゴノキ・ネムノキなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 65%でアカシデが優占し（被度 3）、エゴノキ・イヌシデ・リョウブ・コナラなどをともなう。第 1 低木層は高さ 1.5m、植被率 60%でアオハダ・エゴノキ・コナラが優占し、ヤマツツジ・リョウブ・アカシデ・ガマズミなどをともない、第 2 低木層は植被率 20%でシラカシ・ヤマツツジ・アズマネザサ・コウヤボウキ・アオハダ・ヒサカキなどをともなう。草本層は植被率 10%でジャノヒゲ・ミサキカグマ・チヂミザサ・ノガリヤス・シュンランなどがみられる。

【特記事項】

相観的にはアカシデ-イヌシデ林として、主として台地から低地にかけた傾斜面に分布している。

文献：永野・佐々木・他（1984）、永野（1986）

「浦和市立病院付近の斜面林」（さいたま市）：特定植物群落（9）、国 RDB（11009）

イヌブナ群落（06010）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯に広く分布する。一般にブナ林と同様山腹に発達するが、より急斜面で表土の発達の悪い所は本群落によって占められている。

【選定群落の件数と所在地】

6件 飯能市、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では高木層は高さ 10m、植被率 90%でイヌブナが優占し（被度 3）、クマシデ・ヤマザクラ・ミズナラなどをともなう。亜高木層は高さ 6m、植被率 40%でクマシデが優占し（被度 2）、イヌブナ・ヤマボウシ・ナツツバキ・リョウブ・サワシバなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 50%でイヌブナ・ミツバツツジ・アラゲアオダモ・ウラゲエンコウカエデ・ヤマツツジ・ヤマボウシなどが優占し、第 2 低木層は植被率 30%でアブラツツジ・コアジサイ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・イヌブナなどをともなう。草本層は植被率 30%でキヌタソウ・オクモジハグマ・タガネソウ・イカリソウ・オオバシヨウマなどがみられる。秩父市の群落では亜高木層は高さ 8m、植被率 95%でイヌブナが優占し（被度 3）、クマシデ・リョウブ・ウリハダカエデ・ブナなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3.5m、植被率 60%でキブシが優占し（被度 2）、ベニドウダン・リョウブ・ナンキンナナカマド・ヤマボウシ・キハギなどをともない、第 2 低木層は植被率 20%でナガバノコウヤボウキ・ヤマボウシ・メツクバネウツギ・バイカツツジなどをともなう。草本層は植被率 60%でタガネソウ・ウラハグサ・ヤグルマソウ・キヌタソウ・ツルデンダ・トリアシシヨウマなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域

【特記事項】

文献：永野（1986）、埼玉県編（1987）、永戸・島井（1998）
「武甲山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）
「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）
「妙法岳石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）
「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

オニグルミ群落（06017）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯にかけて広く分布する。沢沿いだけではなく、山腹から尾根筋まで広く発達する。

【選定群落の件数と所在地】

3件 横瀬町、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では高木層は高さ 10m、植被率 70%でオニグルミ（被度 4）が優占している。亜高木層は高さ 6m、植被率 15%でアオダモとオニグルミが出現している。第 1 低木層は高さ 3.5m、植被率 98%でアブラチャンが優占し（被度 5）、ミツバウツギ・サンショウなどをともない、第 2 低木層は植被率 10%でアブラチャン・ミツバウツギ・ヤマブキなどをともなう。草本層は植被率 50%でマネキグサ・シロヨメナ・ミヤマタニワタシ・ヒロハノハネガヤ・コチヂミザサなどがみられる。

【特記事項】

文献：永野・永戸・他（1975）、永野・大垣・他（1976）、永野（1986）
「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）
「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

クヌギ群落（06023）

【選定理由】

RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯と秩父盆地を中心とする中間温帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

3件 さいたま市、鴻巣市、横瀬町

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層は高さ 10.5m、植被率 85%でクヌギが優占し（被度 4）、コナラ・ハンノキなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 30%でクヌギが優占し（被度 2）、コナラ・エゴノキなどをともなう。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 40%でコナラ（被度 2）・ガマズミ（被度 2）が優占し、ハンノキ・カマツカなどをともない、第 2 低木層は植被率 100%でアズマネザサが優占し（被度 5）、ウコギ・コナラ・ハンノキ・ムクノキ・シロダモなどをともなう。草本層はみられない。

【特記事項】

文献：埼玉県編（1980）、永野（1986）

クマシデ群落（06024）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

中間温帯から冷温帯にかけて分布する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 飯能市、横瀬町

【選定群落の概要】

飯能市の群落では亜高木層は高さ8m、植被率75%でクマシデが優占し(被度3)、クマノミズキ・キブシ・イヌシデ・フサザクラなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率60%でクマシデが優占し(被度2)、コクサギ・サワシバ・フサザクラ・ニシキギ・キブシなどをともない、第2低木層は植被率40%でヤマブキ・コクサギ・ムラサキシキブ・カヤなどをともなう。草本層は植被率45%でジャノヒゲ・シロヨメナ・ヤブレガサなどがみられる。

【特記事項】

文献：永野・大垣・他(1976)、永野・立石・他(1980)
「蟬指石灰岩地の森林」→群落複合(石灰岩植生)

クリ群落 (06025)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯にかけて分布する。

【選定群落の件数と所在地】

3件 ときがわ町、長瀨町、皆野町、秩父市

【選定群落の概要】

ときがわ町の群落では高木層は高さ12m、植被率80%でクリ(被度5)が優占している。亜高木層は高さ9m、植被率30%でクリ(被度2)・ズミ(被度2)が出現している。第1低木層は高さ4.5m、植被率60%でサワフタギが優占し(被度3)、アブラチャン・ズミ・ツノハシバミなどをともない、第2低木層は植被率30%でコゴメウツギ・ミヤコザサ・アオハダなどをともなう。草本層は植被率1%でキヌタソウ・エイザンスミレ・シロヨメナなどがみられる。

【特記事項】

文献：永戸・永野・他(1978)
「井戸山の森林」→群落複合(冷・暖温帯移行部森林植生)
「ブナ峠の森林」→群落複合(冷温帯森林植生)

ケヤキ群落 (06026)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯の河川沿いに分布する。荒川、赤平川、浦山川、吉田川、薄川、名栗川などの流域にみられる。

【選定群落の件数と所在地】

9件 さいたま市、飯能市、嵐山町、鴻巣市、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

飯能市の群落では高木層は高さ15m、植被率95%でケヤキが優占し(被度4)、アラカシ・ヤマザクラなどをともなう。亜高木層は高さ9m、植被率70%でアラカシが優占し(被度4)、ケヤキ・シラカシなどをともなう。第1低木層は高さ5m、植被率60%でアラカシが優占し(被度3)、ヤブツバキなどをともない、第2低木層は植被率15%でケヤキ・アラカシ・ヤブツバキ・マルバウツギ・アオキなどをともなう。草本層は植被率+で、ヤマイタチシダ・ナガバジャノヒゲ・オオバノイノモトソウ・オオバジャノヒゲがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ12m、植被率90%でケヤキが優占し(被度3)、フサザクラ・オニイタヤ・ヌルデなどをともなう。亜

高木層は高さ7m、植被率20%でヌルデが優占し（被度2）、ケヤキ・アブラチャン・メグスリノキなどをともなう。第1低木層はイロハモミジ・アブラチャン・ヒノキが優占し、ウラゲエンコウカエデ・ケヤキ・メグスリノキ・ヒメウツギなどをともない、第2低木層はヤマブキ・ヒメウツギ・ミツバウツギ・アズマネザサ・サンショウなどをともなう。草本層は植被率5%でカノツメソウ・ヒロハノハネガヤ・オオイトスゲ・ヤマカモジグサ・ミヤマタニワタシなどがみられる。

【特記事項】

文献：永野・永戸・他（1975）、永野・加藤・他（1978）、永野（1986）、永戸・島井（2001）
「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

コナラ群落 (06027)

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯および中間温帯に分布している。台地・丘陵・山地にかけて広く分布しており、特に山腹に発達している。

【選定群落の件数と所在地】

59件 川口市、朝霞市、新座市、ふじみ野市、さいたま市、春日部市、三芳町、所沢市、狭山市、入間市、飯能市、川越市、鶴ヶ島町、東松山市、鳩山町、嵐山町、吉見町、上尾市、宮代町、北本市、熊谷市、長瀨町、皆野町、秩父市

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層は高さ15m、植被率65%でコナラ（被度4）が優占している。亜高木層は高さ8m、植被率65%でシラカシが優占し（被度3）、コナラ・イヌシデ・アカシデなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率75%でヒサカキが優占し（被度3）、アカシデ・シラカシ・イヌシデ・コナラなどをともない、第2低木層は植被率70%でヒサカキ・シラカシ・コウヤボウキ・アズマネザサなどをともなう。草本層は植被率10%でジャノヒゲ・イヌワラビ・ヤマイタチシダなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ13m、植被率70%でコナラが優占し（被度4）、クリ・アカシデ・モミなどをともなう。亜高木層は高さ8m、植被率70%でアオハダが優占し（被度3）、リョウブ・アカシデ・ウリカエデ・コナラ・ナツツバキなどをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率40%でヤマツツジ（被度1）・ミツバツツジ（被度1）が優占し、ナツツバキ・アオハダ・リョウブ・ヤマウルシ・ウリカエデなどをともない、第2低木層は、植被率60%でコアジサイ・ヤマツツジ・ミツバツツジ・コウヤボウキ・オトコヨウゾメ・アカシデ・コナラなどをともなう。草本層は植被率10%でチゴユリ・フクオウソウ・アキノキリンソウ・シラヤマギクなどがみられる。

【保全地域等】

国指定天然記念物「平林寺境内林」、県立自然公園特別地域、県自然環境保全地域、さいたま緑のトラスト保全地、ふるさとの緑の景観地

【特記事項】

文献：埼玉県編（1980）、永野・加藤（1982）、永野・佐々木・他（1984）、永野（1986）、永戸・島井（2002）

「糶屋のコナラ林」（さいたま市）：特定植物群落（8）、国RDB（11008）

「原前のコナラ林」（さいたま市）：特定植物群落（11）（消滅）、国RDB（11011）

「城山の斜面林」（朝霞市）：特定植物群落（14）、国RDB（11014）

「井戸山の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

サワグルミ群落 (06028)

【選定理由】

国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層はサワグルミが優占している。亜高木層はヤマシバカエデ・フサザクラが優占し、ケヤキ・オオバアサガラ・サワグルミ・ミツデカエデなどをともなう。第1低木層はヤマシバカエデが優占し、オニイタヤ・サワグルミ・ケヤキ・ミツデカエデ・シオジなどをともない、第2低木層はヤマシバカエデ・シオジ・ウリノキ・ヤマアジサイ・ヒメウツギなどをともなう。草本層はミヤマイラクサ・ビロードシダ・ミヤマクマワラビ・ギンバイソウ・イワガネゼンマイなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域

【特記事項】

荒川源流域の溪畔林のなかでは、もっとも高い海拔域に成立している。

文献：永野・永戸・他（1975）、埼玉県編（1987）

「荒川源流域のブナ・イヌブナ林」→群落複合（冷温帯森林植生）

シオジ群落 (06030)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯に分布する。かつては秩父山地の広い範囲にみられたが、現在では典型的な林分は中津川源流域や入川谷流域に限定される。

【選定群落の件数と所在地】

7件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ 15m、植被率 90%でシオジが優占し（被度 5）、オニイタヤ・ハルニレなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 50%でシオジが優占し（被度 3）、ハルニレ・オニイタヤなどをともなう。第1低木層は高さ 3m、植被率 30%でイロハモミジが優占し（被度 3）、オニイタヤ・ハルニレ・サワシバ・ヤマシバカエデ・ヒナウチワカエデなどをともない、第2低木層は植被率 10%でイロハモミジ・ヤマシバカエデ・ウリノキ・サワシバ・ヤマアジサイ・シオジなどをともなう。草本層は植被率 20%でミヤマクマワラビ・ギンバイソウ・イワガネゼンマイ・ウワバミソウ・ウマノミツバなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

秩父山地を代表する典型的な湿性の極相林であり、積極的な保護が必要である。「セツブンソウ群落」（国 RDB 11054）はシオジの優占する二次林の林床にある。

文献：埼玉県編（1980・1987）、永野・永戸・他（1975）、永野（1986）、愛川・牧野・他（2003）
「荒川源流赤沢のシオジ林とブナ林」（秩父市）：国 RDB（11064）

「中津川源流大山沢のシオジ林とブナ林」（秩父市）：国 RDB（11065）

「荒川源流ヒダナ沢のシオジ林とヒノキ林」（秩父市）：国 RDB（11066）

「武甲山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

チチブミネバリ群落 (06036)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯と亜寒帯（亜高山帯）下部の石灰岩地帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

3 件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

秩父市の群落では亜高木層は高さ 7m、植被率 60% でチチブミネバリが優占し（被度 4）、ミヤマザクラをともなう。第 1 低木層は高さ 2.5m、植被率 60% でチチブミネバリが優占し（被度 3）、ウリハダカエデ・トウゴクミツバツツジ・ミヤマザクラなどをとめない、第 2 低木層は植被率 25% でホツツジ・アイズシモツケ・シモツケ・ミヤマガマズミ・ナガバノコウヤボウキ・チチブヤナギなどをともなう。草本層は植被率 60% でヒメカンスゲ・イヌヨモギ・キヌタソウ・タガネソウ・マイヅルソウなどがみられる。小鹿野町の群落では亜高木層は高さ 5.5m、植被率 25% でチチブミネバリ（被度 3）が優占している。第 1 低木層は高さ 3.3m、植被率 70% でチチブミネバリが優占し（被度 2）、マルバアオダモ・ダンコウバイ・チチブヤナギ・クマシデ・リョウブ・ヤマウルシなどをとめない、第 2 低木層は植被率 40% でヤマツツジ・ナガバノコウヤボウキ・ウリハダカエデ・キハギ・チチブミネバリ・チチブヤナギなどをともなう。草本層は植被率 80% でウラハグサが優占し（被度 4）、キヌタソウ・ヒメカンスゲ・ハコネギク・シオガマギク・リュウノウギクなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

石灰岩地帯に発達する森林のなかでは基盤条件を最もよく反映している。

文献：永野（1986）

「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

トチノキ群落 (06038)

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【県内の分布】

冷温帯に分布する。山地の傾斜地や沢沿いなどの湿性の立地に成立する。

【選定群落の件数と所在地】

2 件 秩父市、神川町

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

「三峰神社参道のトチノキ林」（秩父市）：国 RDB（11048）

「城峯山のトチノキ林」（神川町）：国 RDB（11049）

ブナ群落 (06047)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯に広く分布する。土壌の発達のよい適湿な山腹に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

8 件 飯能市、秩父市

【選定群落の概要】

秩父市の群落では高木層は高さ14m、植被率85%でブナが優占し(被度3)、イヌブナ・ミズナラ・クマシデなどをともなう。亜高木層は高さ5.5m、植被率40%でサラサドウダンが優占し(被度2)、クマシデ・ブナ・オオカメノキ・アズキナシ・コハウチワカエデなどをともなう。第1低木層は高さ3.5m、植被率60%でオオカメノキ(被度2)・トウゴクミツバツツジ(被度2)が優占し、ミヤマガマズミ・サラサドウダン・アラゲアオダモ・ホツツジ・アイズシモツケなどをともない、第2低木層は植被率20%でトウゴクミツバツツジ・アズキナシ・ツクバネウツギ・アラゲアオダモ・ナガバノコウヤボウキ・ヒロハノヘビノボラズなどをともなう。草本層は植被率15%でキヌタソウ・ツルデンダ・タガネソウなどがみられる。飯能市の群落では高木層は高さ20m、植被率90%でブナが優占し(被度5)、アカシデをともなう。亜高木層は高さ9m、植被率80%でコハウチワカエデ(被度3)・アカシデ(被度3)をともなう。第1低木層は高さ6m、植被率40%でアセビ(被度2)が優占し、モミ・ミツバツツジ・ヤマツツジ・コハウチワカエデ・ネジキなどをともない、第2低木層は植被率95%でミヤコザサ・スズタケ・バイカツツジ・コハウチワカエデなどをともなう。草本層は植被率が+でオクモミジハグマ・カシワバハグマなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域

【特記事項】

かつて冷温帯に広く分布していたブナ林は各地で伐採され、その跡地は植林・二次林・ササ草原に変貌している。「浦山のフクジュソウ群落」(国RDB11052)の上層はブナが優占している。

文献：埼玉県編(1980・1987)、永野(1986)、村上・宮脇(1988)、永戸・島井(1998)、島井・永戸(2010)

「見返地蔵石灰岩地のブナ林」(秩父市大滝)：特定植物群落(49)、国RDB(11039)

「荒川源流域のブナ・イヌブナ林」→群落複合(冷温帯森林植生)

「荒川源流赤沢のシオジ林とブナ林」(秩父市大滝)：国RDB(11064)

「中津川源流大山沢のシオジ林とブナ林」(秩父市大滝)：国RDB(11065)

ミズナラ群落(06053)

【選定理由】

特定植物群落、国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯に広く分布する。山腹や土壌の発達がよい尾根に成立する。

【選定群落の件数と所在地】

11件 飯能市、ときがわ町、小川町、東秩父村、秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

ときがわ町の群落では高木層は高さ8m、植被率65%でミズナラが優占し(被度3)、コナラ・ハクウンボク・カスミザクラなどをともなう。亜高木層は高さ6m、植被率90%でリョウブが優占し(被度2)、ネジキ・ハクウンボク・ミズナラ・カスミザクラなどをともなう。第1低木層は高さ2.5m、植被率50%でアセビが優占し(被度2)、アブラツツジ・ミツバツツジ・リョウブ・ネジキなどをともない、第2低木層は植被率30%でアズマネザサ・アセビ・アブラツツジ・ミツバツツジ・ヤマツツジ・ガマズミ・クロモジなどをともなう。草本層は植被率40%でミゾシダ・ヒカゲスゲなどがみられる。秩父市の群落では高木層は高さ12m、植被率35%でミズナラが優占し(被度2)、ツガ・イタヤカエデなどをともなう。亜高木層は高さ7m、植被率60%でミズナラが優占し(被度3)、クマシデ・ダンコウバイ・ツリバナ・アオハダ・リョウブなどをともなう。第1低木層は高さ3m、植被率35%でミズナラ・サラサドウダン・ヤマボウシ・ダンコウバイ・アセビなどをともない、第2低木層は植被率20%でミツバツツジ・バイカツツジ・アセビ・ナガバノコウヤボウキ・ヒノウチワカエデ・ミズナラなどをともなう。草本層は植被率15%でチゴユリ・ウラハグサ・キヌタソウ・タガネソウなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：永野（1986）、埼玉県編（1987）、牧野・金子・他（2003）

「中双里の森林」→群落複合（冷・暖温帯移行部森林植生）

「ブナ峠の森林」→群落複合（冷温帯森林植生）

「両神山の亜高山性植物群落」→群落複合（冷温帯森林植生）

「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

「妙法岳石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

「武甲山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

「蟬指石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

ヤエガワカンバ群落（06056）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【県内の分布】

冷温帯下部に局所的に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1件 横瀬町

【選定群落の概要】

この群落の高木層は高さ 12m、植被率 80%でヤエガワカンバが優占し（被度 3）、クリ・コナラなどをともなう。亜高木層は高さ 9m、植被率 35%でエゴノキが優占し（被度 3）、ヤエガワカンバ・コナラなどをともなう。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 15%でエゴノキ・ヤマコウバシをとめない、第 2 低木層は植被率 23%でコゴメウツギ・ヤマコウバシ・コナラ・カマツカ・ウワミズザクラ・クロモジ・ガマズミなどをともなう。草本層は植被率 6%で、コブナグサ・チゴユリなどがみられる。

【特記事項】

ヤエガワカンバは分布上希である。県内では唯一の群落であるが全く保護の対策がなされていない。ヤエガワカンバの減少が著しく、早急な対策が必要である。

「ヤエガワカンバ林」：特定植物群落（36）、国 RDB（11032）

溪畔林（07）

イヌコリヤナギ群落（07001）

【選定理由】

既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定群落の概要】

荒川の群落は上流から中流域にかけ広く分布する。低木層は良く発達しており植被率は 70～80%、イヌコリヤナギが優占するが、林分によってはノイバラとテリハノイバラが高い被度を示す。草本層はスギナ・ヨモギ・ヤブジラミ・イヌドクサ・カキドオシ・ヘビイチゴなどがみられる。

【特記事項】

文献：内藤（1979）、埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

タチヤナギ群落（07009）

【選定理由】

既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定群落の概要】

荒川群落は中流から下流域で良く発達する。低木層はタチヤナギが圧倒的に優占し（被度3）、オノエヤナギ・イヌコリヤナギ・ノイバラなどをとめない、カワヤナギとアカメヤナギは局所的に優占する。草本層はアメリカセンダングサの出現度が高く、ヨシ・ヒナタイノコヅチ・ヤブジラミ・スギナ・ツユクサなどがみられる。

【特記事項】

文献：内藤（1979）、埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

ネコヤナギ群落（07012）

【選定理由】

国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1件 長瀨町、皆野町

【選定群落の概要】

この群落は主に長瀨を中心とした溪流沿いでみられる。ネコヤナギ1種が優占する群落で、他のヤナギ類や低木類はほとんど混生することがない。草本層はヨモギ・ヤブカンゾウ・ナルコスゲ・クサヨシ・イヌムギなどがみられる。

【保全地域等】

国指定天然記念物「長瀨」、県立自然公園特別地域

【特記事項】

文献：埼玉県編（1987）

「長瀨の溪流岩上の植生」→群落複合（河辺植生）

アカメヤナギ群落

【選定理由】

既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯に分布する。

【選定群落の概要】

この群落は主に荒川の中流域から下流域に発達する。低木層は植被率60%～90%で、アカメヤナギが優占し、ノイバラ・カワヤナギ・タチヤナギ・オノエヤナギなどをともなう。草本層はウシハコベ・スギナ・ヒナタイノコヅチ・オオアレチノギク・カワラニンジンなどがみられる。

【特記事項】

文献：内藤（1979）、永野（1986）

カワヤナギ群落

【選定理由】

既報告

【県内の分布】

暖温帯から中間温帯に分布する。荒川や利根川などの河川敷に成立する。

【選定群落の概要】

荒川の群落は下流域で良く発達する。低木層はカワヤナギが優占し、ノイバラ・ムクノキ・イヌコリヤナギなどをとめない、草本層は全般的に良く発達しており、オギ・スギナ・ヨシ・ヤワラスゲ・ネズミムギ・ヤブジラミなどがみられる。

【特記事項】

文献：内藤（1979）、永野（1986）

沼沢林（09）**ハンノキ群落（09004）****【選定理由】**

RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯域の低湿地に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

4件 さいたま市、川越市、鴻巣市

【選定群落の概要】

さいたま市の群落では高木層は高さ15m、植被率70%でハンノキが優占している（被度4）。亜高木層は出現せず、第1低木層は高さ2m、植被率8%でノイバラ・エノキ・イボタノキ・ゴマギなどをとまない、第2低木層は植被率5%でゴマギ・ノイバラ・エノキ・ムクノキ・イボタノキなどをとまない。草本層は植被率100%でヤワラスゲ・ドクダミ・ツユクサ・ヒナタイノコズチ・カモジグサなどがみられる。

【特記事項】

河川敷の公園化など、人の利用の高まりとともに林床の攪乱や伐採による消滅が心配される。

文献：埼玉県編（1980・1987）、永野（1986）

亜高山針葉高木林（11）**オオシラビソ群落（11003）****【選定理由】**

国RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

標高約2,000m以上の亜寒帯（亜高山帯）上部に分布し、長野・山梨・東京との県境尾根に沿ってベルト状に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

1件 秩父市

【選定群落の概要】

この群落の高木層は高さ10m、植被率95%でオオシラビソ（被度4）・シラビソ（被度4）が優占し、ダケカンバ・トウヒなどをとまない。亜高木層は高さ5m、植被率15%でナナカマドが出現する。第1低木層は出現せず、第2低木層は植被率が+で、わずかにウスノキが出現する。草本層は植被率1%でコミヤマカタバミ・タケシマラン・バイカオウレン・シラネウラボシ・キバナノコマノツメなどがみられる。コケ層は植被率100%でタチハイゴケが優占し（被度5）、イワダレゴケ・カモジゴケ・セイタカスギゴケなどをとまない。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区

【特記事項】

秩父山地ではシラビソとオオシラビソが強く結びついてシラビソ-オオシラビソ林を形成する。高標高域ではオオシラビソが、低標高域ではシラビソの密度が高い。三宝山南面や破風山に発達するオオシラビソ優占林では、縞枯れ現象が認められる。

文献：前田・島崎（1951）、埼玉県編（1980）、永野（1986）

「木賊山・甲武信岳・三宝山のシラビソ-オオシラビソ林」→群落複合（冷温帯森林植生）

カラマツ群落 (11004)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

亜寒帯（亜高山帯）に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

2件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ 24.5m、植被率 60%でカラマツが優占し（被度 3）、コメツガをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 20%でコメツガが出現している。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 10%でコメツガ・サビバナナカマド・コヨウラクツツジなどをとめない、第 2 低木層は植被率 15%でコメツガ・サビバナナカマド・コヨウラクツツジ・ミネカエデなどをとまなう。草本層は植被率 3%でマイヅルソウ・コミヤマカタバミ・シラネワラビなどがみられる。コケ層は植被率 75%でイワダレゴケが優占し（被度 4）、タチハイゴケをともなう。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：埼玉県編（1980）、永野（1986）

「黒岩尾根のカラマツ林」（秩父市）：国 RDB（11005）

コメツガ群落 (11005)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

亜寒帯（亜高山帯）下部に分布する。標高 1,600 ~ 2,000m の山腹や尾根筋に広く発達しており、尾根筋では 2,300m 付近まで上る。

【選定群落の件数と所在地】

7件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では高木層は高さ 22m、植被率 92%でコメツガが優占し（被度 5）、ヒノキをともなう。亜高木層は高さ 11m、植被率 35%でコメツガが優占し（被度 2）、ベニサラサドウダンをともなう。第 1 低木層は高さ 6m、植被率 53%でアカヤシオ（被度 2）・ベニサラサドウダン（被度 2）が優占し、アセビ・リョウブ・オオカメノキなどをとめない、第 2 低木層は植被率 72%でトウゴクミツバツツジ・コヨウラクツツジ・コメツガ・ミネカエデ・タカノツメなどをとまなう。草本層は植被率 15%でマイヅルソウが優占し（被度 2）、ツクバネソウ・ツバメオモト・イワセントウソウ・ユキザサなどがみられる。コケ層は植被率 95%でイワダレゴケが優占（被度 5）し、チシマシッポゴケをともなう。秩父市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 70%でコメツガが優占し（被度 3）、トウヒをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 25%でシラビソ（被度 3）が出現する。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 20%でシラビソが優占し（被度 2）、オオシラビソ・トウヒなどをとめない、第 2 低木層は植被率 45%でコヨウラクツツジ・サビバナナカマド・シラビソ・ミネカエデなどをとまなう。草本層は植被率 80%でシラネワラビが優占し（被度 4）、マイヅルソウ・ミヤマカタバミ・ゴゼンタチバナ・カニコウモリなどがみられる。コケ層は植被率 70%でフジノマンネングサが優占し（被度 4）、セイトカスギゴケなどをとまなう。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域

【特記事項】

コメツガ林の林床型はイワダレゴケ・タチハイゴケを優占種とするコケ型、シノブカグマ・シラネワラビ・ミヤマシダに代表されるシダ型、ミヤコザサやスズタケによって被覆されたササ型、

および林床群落を欠いた裸地型の4つの林床型に類型化される。

文献：永野・永戸（1971）、永野・栗原・他（1977）、埼玉県編（1980）、永野（1986）

「両神山のコメツガ林」（秩父市・小鹿野町）：特定植物群落（47）

「赤沢岳石灰岩地のコメツガ林」（秩父市）：特定植物群落（55）、国 RDB（11044）

「イモノキドツケ石灰岩地のコメツガ林」（秩父市）：特定植物群落（51）、国 RDB（11041）

「十文字峠石灰岩地のコメツガ林」（秩父市）：特定植物群落（58）、国 RDB（11046）

「雁坂峠のコメツガ林」（秩父市）：特定植物群落（56）

「荒川源流域のコメツガ林」（秩父市）：国 RDB（11063）

「両神山の亜高山性植物群落」→群落複合（冷温帯森林植生）

シラビソ群落（11006）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

標高 2,000m 以上の亜寒帯（亜高山帯）上部に分布し、長野・山梨・東京との県境尾根に沿ってベルト状に成立している。

【選定群落の件数と所在地】

3 件 秩父市

【選定群落の概要】

秩父市大滝の群落では高木層は高さ 22m、植被率 80% でシラビソが優占し（被度 4）、ヨグソミネバリ・トウヒなどをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 30% でコメツガ・ヨグソミネバリ・ダケカンバ・シラビソなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 40% でシラビソ・コメツガ・コヨウラクツツジをとめない、第 2 低木層は植被率 20% でコメツガ・コヨウラクツツジ・シラビソ・アズマシャクナゲなどをともなう。草本層は出現せず、コケ層は植被率 70% でイワダレゴケが優占し（被度 4）、タチハイゴケ・エゾチョウチンゴケなどをともなう。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区

【特記事項】

秩父山地ではシラビソとオオシラビソが強く結びついてシラビソ-オオシラビソ林を形成する。高標高域ではオオシラビソが、低標高域ではシラビソの密度が高い。

文献：前田・島崎（1951）、埼玉県編（1980）、永野（1986）

「木賊山・甲武信岳・三宝山のシラビソ-オオシラビソ林」→群落複合（冷温帯森林植生）

トウヒ群落（11007）

【選定理由】

国 RDB

【県内の分布】

亜寒帯（亜高山帯）に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1 件 秩父市

【保全地域等】

国立公園特別保護地区

【特記事項】

「雁坂峠のトウヒ林」（秩父市）：国 RDB（11056）

温帯性先駆木本群落 (12)

フサザクラ群落 (12013)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【県内の分布】

暖温帯から冷温帯にかけて分布する。分布域の中心は冷温帯で、中間温帯から暖温帯に下降するにつれて減少する。土地条件に対する適応性が強く、渓谷の湿性立地に限らず北向き斜面、石灰岩地域、伐採跡地などにもみられる。

【選定群落の件数と所在地】

3件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では高木層は高さ 12m、植被率 90% でフサザクラが優占し (被度 4)、ミズキをともなう。亜高木層は高さ 8m、植被率 60% でフサザクラが優占し (被度 3)、サワシバ・ミズキ・イヌブナなどをともなう。第 1 低木層は高さ 3m、植被率 40% でオオモミジが優占し (被度 2)、サワシバ・フサザクラ・リョウブ・イヌブナなどをともない、第 2 低木層は植被率 5% でヤマアジサイ・ナガバノコウヤボウキ・バイカウツギ・ヤマシバカエデ・サワシバなどをともなう。草本層は植被率が 85% でミヤマクマワラビ・オウレンシダ・アカショウマ・オオバショウマ・ヌリワラビなどがみられる。

【特記事項】

文献：永野・大垣 (1975)、永野・永戸・他 (1975)、永野・加藤・他 (1978)、永野 (1986)
「武甲山石灰岩地の森林」→群落複合 (石灰岩植生)
「二子山石灰岩地の森林」→群落複合 (石灰岩植生)
「中双里の森林」→群落複合 (冷・暖温帯移行部森林植生)

暖地性先駆木本群落 (13)

カラスザンショウ群落 (13009)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

暖温帯に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1件 秩父市

【選定群落の概要】

この群落の高木層は高さ 22m、植被率 80% でカラスザンショウが優占し (被度 4)、サワグルミをともなう。亜高木層は高さ 10m、植被率 70% でサワシバが優占し (被度 2)、ウワミズザクラ・アカメガシワ・ウラゲエンコウカエデ・カラスザンショウ・ヤマシバカエデなどをともなう。第 1 低木層は高さ 4m、植被率 50% でサワシバが優占し、ヤマツツジ・アワブキ・アオハダ・ツリバナ・アカメガシワなどをともない、第 2 低木層は植被率 15% でヤマブキ・ムラサキシキブ・アオダモ・メグスリノキなどをともなう。草本層は植被率 5% でチゴユリ・チヂミザサ・カシワバハグマ・ヤブレガサ・ヤマユリなどがみられる。

【特記事項】

本来の分布域から離れた中間温帯域の群落として注目される。
文献：永野・永戸・他 (1975)
「中双里の森林」→群落複合 (冷・暖温帯移行部森林植生)

岩角地・風衝低木林 (16)

イワシモツケ群落 (16015)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯、亜寒帯（亜高山帯）下部に分布する。尾根や岩峰の風衝地に小集団を形成する。

【選定群落の件数と所在地】

3件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では第2低木層は植被率70%でイワシモツケが優占し（被度3）、マルバハギ・ケアオダモ・アカシデなどをともなう。草本層は植被率80%でウラハグサが優占し（被度3）、ヒメカンスゲ・ホソバヒカゲスゲ・ニッコウキスゲ・ホタルサイコ・イワギボウシ・イブキボウフウ・ウスユキソウなどがみられる。秩父市の群落では第2低木層は、植被率95%でイワシモツケが優占し（被度5）、クサボタン・ヒロハヘビノボラズなどをともなう。草本層は植被率3%でイワオウギ・イブキボウフウ・ノガリヤス・イワウサギシダ・ダンナイフウロなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：永野・大垣・他（1976）、永野・栗原・他（1977）、永野・加藤・他（1978）、永野（1986）
「武甲山のイワシモツケ群落」（秩父市）（消滅）：特定植物群落（41）、国 RDB（11035）
「イワシモツケ群落」：特定植物群落（57）、国 RDB（11045）
「二子山石灰岩地の森林」→群落複合（石灰岩植生）

ハコネコメツツジ群落 (16044)

【選定理由】

RDB2005、既報告

【県内の分布】

亜寒帯（亜高山帯）に分布する。三国峠から甲武信岳、雁坂嶺へつづく尾根や白泰山・両神山などの乾燥した風衝岩角地に小集団を形成する。

【選定群落の件数と所在地】

3件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

秩父市の群落では第2低木層はハコネコメツツジが優占し、ダケカンバ・コケモモ・ウスノキ・ネコシデなどをともなう。草本層はタカネニガナ・ヒメノガリヤス・ヒメイワカガミ・タカネマコナ・ウシノケグサ・ヒメスゲなどがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：永野（1986）

ヒカゲツツジ群落

【選定理由】

RDB2005

【選定群落の件数と所在地】

1件 東秩父村

【保全地域等】

県指定天然記念物

高山・亜高山低木林 (20)

ダケカンバ群落 (20010)

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

冷温帯から亜寒帯（亜高山帯）に分布する。とくに亜高山針葉樹林帯の極相林崩壊地や伐採跡地などに広く発達している。

【選定群落の件数と所在地】

4 件 秩父市、小鹿野町

【選定群落の概要】

秩父市の群落では高木層は高さ 15m、植被率 93% でダケカンバ（被度 5）が優占している。亜高木層は高さ 7.5m、植被率 15% でサビバナナカマド・ミネザクラ・オガラバナなどをともなう。第 1 低木層は高さ 5.5m、植被率 40% でリョウブが優占し（被度 2）、サビバナナカマド・コメツガ・ヒロハツリバナなどをともない、第 2 低木層は植被率 100% でスズタケが優占し（被度 5）、コヨウラクツツジ・オオカメノキ・リョウブ・コメツガなどをともなう。草本層は植被率が+でヘビノネゴザがみられる。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：埼玉県編（1980）、神沢（1984）、永野（1986）。

「両神山の亜高山性植物群落」→群落複合（冷温帯森林植生）

ハイマツ群落 (20012)

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【県内の分布】

高山の風衝地に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

1 件 秩父市

【保全地域等】

国立公園特別保護地区

【特記事項】

「西破風山のハイマツ群落」（秩父市）：国 RDB（11062）

岩上・岩隙草本群落 (42)

ウラハグサ群落 (42019)

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【県内の分布】

秩父山地の岩上や、長瀬を中心とした溪谷の岩上に分布する。

【選定群落の件数と所在地】

3 件 長瀬町、皆野町、小鹿野町

【選定群落の概要】

小鹿野町の群落では第 2 低木層にキハギ・マルバアオダモ・イワシモツケなどが出現している。草本層ではウラハグサが優占し、ヒメカンスゲ・アキカラマツ・ハコネギク・ウスユキソウ・イワギボウシ・シュロソウ・イブキボウフウ・ハコネギクなどがみられる。

【保全地域等】

国指定天然記念物「長瀬」、県立自然公園特別地域

【特記事項】

文献：永野・永戸・他（1975）、永野・加藤・他（1982）、佐々木・太田（1986）
「長瀨の溪畔岩上の植生」→群落複合（河辺植生）

溪流辺草本群落（43）**タヌキラン群落（43005）****【選定理由】**

国 RDB、RDB2005

【選定群落の件数と所在地】

2件 秩父市

【特記事項】

「国 RDB」によると太平洋気候下の群落として貴重であり、ダム建設や護岸工事により群落の存続に重大な影響が及ぶことが危惧されている。

「蓼沼のタヌキラン群落」（秩父市）：国 RDB（11050）

「近戸のタヌキラン群落」（秩父市）：国 RDB（11051）

シダ草原（48）**ウラジロ群落（48001）****【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【県内の分布】

丘陵や低山地にやや希にみられる。

【選定群落の件数と所在地】

1件 ときがわ町

【保全地域等】

県天然記念物「道元平のウラジロ群落」、県自然環境保全地域

【特記事項】

「道元平のウラジロ群落」（ときがわ町）：特定植物群落（59）

《群落複合》**冷・暖温帯移行部森林植生（02）****井戸山の森林（長瀨町・皆野町）****【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとミツバツツジ-アカマツ群集、ヤマツツジ-コナラ群落、コアジサイ-クリ群落、アラカシ群落が報告されている。

【保全地域等】

県立自然公園特別地域

【特記事項】

アカマツは尾根近くにわずかに残存しているのみで、クリも減少している。

文献：永戸・永野・他（1978）。特定植物群落（29）、国 RDB（11002）

龍泉寺の社寺林（飯能市）**【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとウラジログシ林、モミ林が報告されている。

【特記事項】

龍泉寺の裏山の傾斜面および尾根筋に発達する社寺林である。このウラジログシ林にはツクバネガシが優占する植分も認められることから島井・永戸（2004）はツクバネガシ優占林として報告している。特定植物群落（38）、国 RDB（11004）

中双里の森林（秩父市）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとツガーモミ群落、コカンスゲーツガ群落、シャクナゲーヒノキ群落、イヌブナ群落、フクオウソウーミズナラ群集、ヤマツツジーコナラ群集、チゴユリークリ群落、イロハモミジーケヤキ群集、ミヤマクマワラビーシオジ群集、タマアジサイーフサザクラ群集が報告されている。

【特記事項】

文献：永野・永戸・他（1975）。特定植物群落（53）（消滅）、国 RDB（11009）

長尾根の中間温帯林（秩父市・小鹿野町）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはコナラ群落、クリ群落、モミ群落が記載されている。

【特記事項】

モミ群落は尾根上に残存する。道路開発によりコナラ群落の一部が消滅した。国 RDB（11013）

狭山丘陵の雑木林（所沢市・入間市）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはコナラ群落、アカマツ群落が記載されている。

【特記事項】

アカマツ群落はほとんど消滅した。国 RDB（11014）

雑木林（三芳町）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはコナラ群落、アカマツ群落が記載されている。

【特記事項】

アカマツ群落はほとんど消滅した。国 RDB（11015）

多福寺の平地林（三芳町）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとヤマツツジーアカマツ群落、ヤマツツジーコナラ群落、シラカシ群集が報告されている。

【保全地域等】

県自然環境保全地域

【特記事項】

周辺部の開発等によりヤマツツジ-アカマツ群落、シラカシ群集は消滅した。特定植物群落(60)、国 RDB (11010)

両神山山足部の早春植物群落 (小鹿野町)**【選定理由】**

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはフクジュソウ群落、セツブンソウ群落、アズマイチゲ群落が記載されている。

【保全地域等】

国立公園特別地域、県指定天然記念物 (一部)、県自然環境保全地域

【特記事項】

「国 RDB」によるとチャートや硬砂岩の礫からなる崖錐地や石灰岩地の北東に面した凹状斜面に生育する春植物群落である。国 RDB (11018)

冷温帯森林植生 (03)**ブナ峠の森林 (ときがわ町)****【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとフクオウソウ-ミズナラ群落、クリ群落が報告されている。

【特記事項】

特定植物群落 (32)、国 RDB (11003)

和名倉山の森林植生 (秩父市)**【選定理由】**

国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはブナ群落、イヌブナ群落、ツガ群落、シオジ群落、ヒノキ群落が記載されている。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

文献：牧野・木村・他 (2002)。国 RDB (11012)

両神山の亜高山性植物群落 (小鹿野町)**【選定理由】**

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「国 RDB」にはコメツガ群落、イラモミ群落が記載されている。その後、「RDB2005」にコメツガ群落、ヒノキ群落、ウラジロモミ群落、ミズナラ群落、ダケカンバ群落が記載された。同地域には「両神山のコメツガ林」(特定植物群落 47) も指定されている。

【保全地域等】

国立公園特別地域

【特記事項】

八丁峠から東岳にかけて立地を反映した様々な群落が発達している。国 RDB (11019)

木賊山・甲武信岳・三宝山のシラビソ-オオシラビソ林（秩父市）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはシラビソ-オオシラビソ群落のほかにダケカンバ群落、コメツガ群落に記載されている。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区

【特記事項】

国 RDB（11020）

荒川源流域のブナ-イヌブナ林（秩父市）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはブナ-イヌブナ群落のほかにツガ群落、ヒノキ群落、シオジ群落、サワグルミ群落に記載されている。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域。

【特記事項】

文献：埼玉県編（1987）。国 RDB（11022）

河辺植生（06）

長瀬の溪畔岩上の植生（長瀬町、皆野町）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはユキヤナギ群落、シラン群落、ネコヤナギ群落、ウラハグサ群落、ナルコスゲ群落、オキナグサ群落に記載されている。

【保全地域等】

国指定天然記念物（一部）、県立自然公園特別地域（一部）

【特記事項】

文献：佐々木・太田（1986）。国 RDB（11017）

荒川源流域の溪畔林（秩父市）

【選定理由】

国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「RDB2005」にはカラマツ群落、サワラ群落、ヒロハカツラ群落、ジゾウカンバ群落に記載されている。

【保全地域等】

国立公園特別保護地区・特別地域

【特記事項】

文献：埼玉県編（1987）。国 RDB（11021）

中間・低層湿原植生（11）

加須の浮野とその植物群落（加須市）

【選定理由】

RDB2005

【保全地域等】

県指定天然記念物

水生植生（12）

黒浜沼湿性植物群落（蓮田市）

【選定理由】

RDB2005

【保全地域等】

県自然環境保全地域

石灰岩植生（15）

武甲山石灰岩地の森林（秩父市）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとタマアジサイーフサザクラ群集、ミヤマクマワラビーカラマツ群集、コクサギアサダ群落、ミヤマクマワラビーシオジ群集、ブナイヌブナ群落、キヌタソウミズナラ群落が報告されているが、石灰石採石のための伐採により消滅

【特記事項】

文献：永野・大垣（1975）。特定植物群落（40）（消滅）、国 RDB（11005）

蟬指石灰岩地の森林（飯能市）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとキヌタソウミズナラ群落、コクサギアサダ群落、クマシデ群落が報告されている。

【特記事項】

この地域の石灰岩地の大部分は採石によって消滅している現在、二次林であっても貴重である。
文献：永野・立石・他（1980）。特定植物群落（43）、国 RDB（11006）

二子山石灰岩地の森林（小鹿野町）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005、既報告

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとイワシモツケ低木群落、ヒメカンスゲチチブミネバリ群落、イヌブナ群落、キヌタソウミズナラ群落、タマアジサイーフサザクラ群落、イロハモミジケヤキ群集、アブラチャンオニグルミ群落が報告されている。

【特記事項】

森林群落のほかウラハグサ群落などがみられる。

文献：永野・加藤・他（1978・1982）。特定植物群落（45）、国 RDB（11007）

妙法岳石灰岩地の森林（秩父市）

【選定理由】

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとコカンスゲツガ群集、キヌタソウミズナラ群落、イヌブナ群落が報告されている。

【特記事項】

特定植物群落 (48)、国 RDB (11008)

豆焼沢石灰岩地の植物群落 (秩父市)**【選定理由】**

RDB2005

【保全地域等】

国立公園特別地域

超塩基性岩植生 (16)**釜伏山の早春植物群落 (寄居町)****【選定理由】**

国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「国 RDB」には雑木林の林床にカタクリ・ニリンソウなど多数の早春植物の群生が記載されている。

【特記事項】

道路に隣接しているため、対策が必要である。国 RDB (11016)

岩隙植生 (17)**両神山滝前のツツジ群落 (小鹿野町)****【選定理由】**

特定植物群落、国 RDB、RDB2005

【選定群落の概要】

「特定植物群落」によるとミツバツツジ、アブラツツジ、ヒカゲツツジなどの低木性ツツジ科植物が多くみられ、本地域に成立している森林植生としてはタマアジサイーフサザクラ群集、ブナイヌブナ群落、コカンスゲーツガ群集、アセビーヒノキ群落が報告されている。「RDB2005」ではそのほかの群落としてシオジ群落、ミズナラ群落、クリ群落、アカヤシオ群落、トウゴクミツバツツジ群落、フクジュソウ群落が記載されている。

【保全地域等】

県自然環境保全地域

【特記事項】

秩父山地の冷温帯で表土の極めて浅い岩角地に成立しており、植生学上重要な地域である。特定植物群落 (61)、国 RDB (11011)

【参考文献】

- 愛川敬武・牧野彰吾・尾形一法・山下 裕 (2003) 大滝村山吹沢支流のシオジ林の植生. 埼玉生物 43: 15. 埼玉県高等学校生物研究会
- 千葉県環境部自然保護課編 (1999) 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物編. 435pp
- 長谷川 寛・厚澤正治・清水保典・高橋勝緒・高橋絹世・長澤義則・古橋光弘・若山正隆・太田和夫 (2003) 埼玉県下流域ハンノキ林の遷移. 埼玉県立自然史博物館研究報告 20・21: 35 - 48
- 日高町史編集委員会・日高町教育委員会編 (1991) 日高町史 自然史編. 530pp. 埼玉県日高町日高市教育委員会編 (1992) 日高町史自然史編 調査記録集. 192pp. 埼玉県日高市環境庁編 (1988) 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査 (埼玉県). 第3回自然環境保全基礎調査. 72pp
- 環境庁自然保護局編 (1978) 特定植物群落調査報告書. 第2回自然環境保全基礎調査. 248pp
- 神沢利一 (1984) 植物群落の生態学的研究. 昭和 59 年度埼玉県研修報告書集録. 85 - 88
- 川西基博・崎尾 均・大野啓一 (2004) 奥秩父大山沢のシオジ-サワグルミ林における林床植物の成立と地表攪乱. 植生学会誌 21: 15 - 26
- ・—————・白石貴子・米林 伸・後藤真太郎 (2006) 荒川中流域の河畔林における草本植生の種組成と生活型. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター (ORC) 整備事業 平成 17 年度事業報告書. 107 - 112
- 木口博史・田中 実・三上忠仁・林 久顕・対馬良一 (2000) 顔振峠のアカガシ林. 埼玉生物 40: 27 - 29. 埼玉県高等学校生物研究会
- 木村和喜夫・三上忠仁・山下 裕・矢島民夫・平 誠 (2000) 秩父山地破風山における森林の分布と構造. 埼玉生物 40: 38 - 39. 埼玉県高等学校生物研究会
- 木左貫博光・梶幹夫・鈴木和夫 (1992) 秩父山地におけるシオジ林の林分構造と更新過程. 東京大学農学部演習林報告 88: 15 - 32
- 前田禎三・島崎芳雄 (1951) 秩父山岳林植生の研究 (第1報). 東京大学農学部演習林報告 39: 171 - 184
- ・吉岡二郎 (1952) 秩父山岳林植生の研究 (第2報). 東京大学農学部演習林報告 40: 129 - 150
- 牧野彰吾・木村和喜夫・三上忠仁・矢島民夫・山下 裕・田中 実・市川嘉一・石川好夫・斉藤弥吉 (2002) 秩父山地・和名倉山の植生. 埼玉生物 42: 21 - 24. 埼玉県高等学校生物研究会
- ・矢島民夫・山下 裕・田中 実・市川嘉一・斉藤弥吉・石川好夫・三上忠仁 (2002) 奥秩父・入川東大演習林の植生. 埼玉生物 42: 27. 埼玉県高等学校生物研究会
- ・金子修史・植田春美・細川佳代・三上忠仁 (2003) 笠山の植生. 埼玉生物 43: 13 - 14. 埼玉県高等学校生物研究会
- 宮脇 昭・奥田重俊・井上香世子 (1975) 埼玉県南東部の植生. 86pp. 埼玉県
- ・佐々木寧・飯野和子 (1976) 比企丘陵の植生. 横浜植生学会報告 5. 47pp
- 諸町太陽・川西基博・米林 伸 (2007) 火入れが荒川中流域のオギ群落に及ぼす影響. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター (ORC) 整備事業 平成 18 年度事業報告書. 117 - 120
- 村上雄秀・宮脇 昭 (1988) 秩父地方のイヌブナ、ブナ林について. 横浜国大環境研紀要 15: 103 - 117
- ・————— (1989) 秩父地方の常緑広葉樹林について. 横浜国大環境研紀要 16: 95 - 105
- ・————— (1990) 秩父山地のヒノキ林について. 日生態会誌 40: 85 - 94
- 永野 巖 (1973) 越生町梅園神社のスダジイ林. 秩父自然科学博物館研究報告 17: 87 - 94
- (1973) 埼玉県の植生. 埼玉の文化財 13: 4 - 31. 埼玉県文化財保護協会
- (1980) 埼玉県の森林植生 (予報). 埼玉縣市町村誌 20: 64 - 126. 埼玉県教育委員会

- (1985) 見沼斜面林試論. 見沼田圃論集 2: 7 - 21. 埼玉県
- (1986) 埼玉の風土と森林. 「新編埼玉県史別編 3 自然」. 253 - 455. 埼玉県
- (1990) 埼玉四季の植物. 310pp. 埼玉新聞社
- ・加藤静江 (1982) 遺跡及び周辺の植生. 寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書(自然遺物編). 19 - 58. 埼玉県教育委員会
- ・——— (1985a) 埼玉東部平野におけるシラカシ林の遷移をめぐって. 群落研究 2: 15 - 25
- ・——— (1985b) 天然記念物「武甲山石灰岩地特殊植物群落」追加指定地域の植生. 天然記念物「武甲山石灰岩地特殊植物群落」追加指定地域の地質と植生. 21 - 130. 横瀬町教育委員会
- ・——— (1986) 埼玉県の植生. 日本植生誌 7 関東. 479 - 484. 至文堂
- ・———・木口博史・太田和夫 (1986) 関東地方石灰岩植生覚えがき (4) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 22: 259 - 285
- ・———・斎藤弥吉・森屋弘一 (1978) 二子山石灰岩地の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 14: 65 - 121
- ・———・鈴木悦子・丸山道子 (1982) 関東地方石灰岩植生覚えがき (3) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 18: 167 - 203
- ・栗原栄子・柿沼珠枝 (1977) 秩父山地亜高山帯石灰岩地の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 13: 1 - 22
- ・永戸 健 (1971) 両神山のコメツガ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 7: 21 - 30
- ・———・岸田喜代美・大槻礼子 (1975) 中津川流域の植生. 滝沢ダム環境調査報告書 3. 51 - 107. 国土開発技術研究センター
- ・大垣晃一 (1975) 武甲山石灰岩地域の森林植生. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 10: 35 - 76
- ・———・永戸 健 (1974) 大山祇神社のウラジロガシ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学) 9: 57 - 65
- ・———・———・田村説三・清水 誠 (1976) 武甲山石灰岩及びその周縁地域に発達する森林植生. 石灰石鉱山緑化対策に関する研究 (第 2 報). 東京通商産業局・石灰石鉱山緑化対策研究委員会. 82 - 100
- ・佐々木寧・加藤静江 (1984) 埼玉県見沼田圃周辺斜面林の分布と生態. 見沼田圃周辺斜面林等保全基礎調査報告書. 1 - 59. 埼玉県
- ・四分一平内・田地野武司 (1966) 秩父釜伏山蛇紋岩地域の植生. 秩父自然科学博物館研究報告 13: 7 - 17
- ・———・———・黒沢代喜知 (1967) 秩父山地のアカマツ-ミツバツツジ群集について (仮称). 秩父自然科学博物館研究報告 14: 41 - 54
- ・田嶋勝己 (1973) 埼玉県における二次林植生としてのアカマツ林. 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 8: 53 - 72
- ・田地野武司 (1973) 埼玉県のモミ林について (予報). 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 8: 73 - 82
- ・立石幸敏・大塚 明 (1980) 関東地方石灰岩植生覚えがき (1) 埼玉大学教養部紀要 (自然科学編) 16: 1 - 26
- 永戸 健 (1978) 顔振峠のアカガシ林について. 大東文化大学紀要 (社会・自然科学) 16: 99 - 110
- (1988) 岩殿丘陵に発達するアカマツ林について. 大東文化大学教養課程創立 20 周年記念論文集. 403 - 414
- ・永野 巖 (1971) 秩父鉱山地域に発達するヒノキ林. 秩父自然科学博物館研究報告 16: 49 - 56
- ・———・四分一平内 (1978) 井戸山の森林植生. 秩父自然科学博物館研究報告 18: 43 - 55

- ・島井誠司(1995) 埼玉県の常緑広葉樹林 (I) 山地のスダジイ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 33: 139 - 150
- ・———(1998) 奥武蔵、子の山のブナ林. 大東文化大学紀要(自然科学) 36: 153 - 172
- ・———(1999) 奥武蔵、顔振峠のブナを含むアカガシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 37: 135 - 143
- ・———(2000) 比企郡小川町、愛宕山に残存するスダジイ巨樹林. 大東文化大学紀要(自然科学) 38: 111 - 119
- ・———(2001) 飯能市吾野の高麗川左岸急傾斜地に発達するケヤキ-アラカシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 39: 45 - 54
- ・———(2002) 岩殿丘陵に発達するコナラ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 40: 11 - 25
- ・———・永野 巖(1988) 関東地方西北部山地のカシ林 (I) アカガシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 26: 157 - 171
- ・———・———(1988) 関東地方西北部山地のカシ林 (II) 秩父山地のアラカシ林とシラカシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 27: 179 - 208
- 内藤ふみ(1979) 荒川流域のヤナギ群落について. 立教大学修士論文. 1 - 40
- 仲谷貴志・米林 伸・川西基博(2009) 荒川中流域の河畔草地における火入れが希少種(イヌハギ、カワラナデシコ)に及ぼす影響. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業平成20年度事業報告書. 136 - 143
- 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編(1996) 植物群落レッドデータ・ブック. 1344pp. アボック社出版局
- 小川滋之・沖津 進(2010) 外秩父山地におけるカバノキ林の立地環境と維持機構. 植生学会誌 27: 73 - 81
- 太田和夫(1990) 秩父地方におけるフクジュソウとセツブンソウの生育環境. 埼玉県立自然史博物館研究報告 8: 17 - 32
- 埼玉県編(1980) 植生調査報告書. 第2回自然環境保全基礎調査. 296pp
- (1987) 荒川自然. 荒川総合調査報告書1. 722pp
- 埼玉県文化財保護協会編(1991) 記念物(天然記念物) 桂木のタブノキ林. 埼玉の文化財 32: 55
- 埼玉県文化財保護協会編(1996) 記念物(天然記念物) 下里のスダジイ林. 埼玉の文化財 37: 41
- 埼玉県環境防災部みどり自然課編(2005) 改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編. 358pp
- 崎尾 均・白石貴子・後藤真太郎・米林 伸・川西基博・小林 誠・渡邊定元(2006) 荒川中流域の河畔林の構造と動態. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター(ORC)整備事業平成17年度事業報告書. 101 - 106
- 佐々木 寧・太田和夫(1986) 長瀬の原植生について. 埼玉県立自然史博物館研究報告 4: 21 - 29
- ・———(1987) 荒川のタヌキラン群集. 埼玉県立自然史博物館研究報告 5: 7 - 15
- 指村奈穂子・須田大樹・岩田豊太郎(2011) 埼玉県におけるカバノキ属9種の分布と地形・地質との関係. 埼玉県立自然の博物館研究報告 5
- 四分一平内・永野 巖・黒沢代喜知・田地野武司(1967) 秩父能林蛇紋岩地域の植生. 秩父自然科学博物館研究報告 14: 37 - 40
- 島井誠司・永戸 健(1996) 埼玉県の常緑広葉樹林 (II) 山地のタブノキ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 34: 147 - 157
- ・———(1997) 埼玉県の常緑広葉樹林 (III) 平野部のシラカシ林について. 大東文化大学紀要(自然科学) 35: 157 - 167
- ・———(1999) 埼玉県の常緑広葉樹林(IV)山地のシラカシ林. 大東文化大学紀要(自然科学) 37: 121 - 133

- ・————— (2004) 埼玉県の常緑広葉樹林 (V) ツクバネガシ優占林. 大東文化大学紀要 (自然科学) 42: 1 - 15
- ・————— (2010) 奥秩父山地大持山のブナ林について. 大東文化大学紀要 (自然科学) 48: 9 - 17
- ・————— (2011) 埼玉県のモミ林 - 暖温帯上部のモミ林について -. 大東文化大学紀要 (自然科学) 49: 1 - 16
- 高橋星馬・川西基博・米林 伸 (2008) 荒川中流域の河畔林におけるクヌギ (*Quercus acutissima*) の更新と分布拡大機構. 立正大学文部科学省学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター (ORC) 整備事業 平成 19 年度事業報告書. 95 - 99
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編 (2006) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 植物篇. 37 - 222. 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 田村説三 (1976) 埼玉県の森林植生. 埼玉生物 16: 3 - 6. 埼玉県高等学校生物研究会
- (1978) 埼玉県の植生. 埼玉県動物誌. 11 - 18. 埼玉県教育委員会
- ・ト沢美久 (1972) 埼玉県西部山地低山帯の森林植生について. 昭和 46 年度埼玉県動物誌基礎調査報告. 96 - 107. 埼玉県教育委員会
- (1994) まぐさ場 (稜場) の植生とまぐさ場起源の二次林. 埼玉県立自然史博物館研究報告 12: 73 - 82
- 田中 実・平 誠・三上忠仁 (2003) 大滝村南天山コマツガ林の植生. 埼玉生物 43: 16. 埼玉県高等学校生物研究会
- ト沢美久・木口博史・三上忠仁 (2000) 埼玉県川口市興禅院の森林植生. 埼玉生物 40: 30 - 37. 埼玉県高等学校生物研究会
- 山下 裕・木村和喜夫・金子修史・三上忠仁・平 誠・石川好夫・木口博史 (2001) 釜伏山蛇紋岩地域の森林植生. 埼玉生物 41: 6 - 10. 埼玉県高等学校生物研究会

(2) 埼玉県の草本植物群落

埼玉県は低地の一部を除き森林群落が発達し、草本群落はあまり発達しない。そのため草本群落の多くは小規模となるが、その中でも亜高山帯の雁坂峠、雁峠、笠取山、将監峠などにはやや発達した風衝草原が見られる。

亜高山帯から山地帯で尾根や森林内の岩塊地に小さな草本群落が見られる。特にチチブイワザクラ、チチブリンドウ、キバナコウリンカなど学術上貴重な群落の多くは石灰岩上に形成されている。

低山帯から丘陵帯にかけての路傍や林縁にはフクジュソウ、セツブンソウ、カタクリなどの早春植物群落が多く見られ、保護されている生育地もある。また、茅場として利用されていたススキ群落や山麓湿地などにも貴重な植物群落が見られたが、近年減少傾向が顕著で絶滅した群落もある。

低地の水田地帯を中心に水田雑草群落や水路、溜め池、池沼内には水生植物群落が見られる。特に加須市浮野の湿性植物群落にはトキソウ、クサレダマ、カキツバタ、イトハコベなど貴重な植物群落が生育する。

県内には荒川、入間川、利根川などの大河川と、その支流が数多く流れている。荒川中流域の砂礫地にはカワラナデシコ、カワラニガナ、カワラサイコなどの植物群落が見られる。下流域では大規模な氾濫原にヨシやオギの群落が発達する。その河川敷にはサクラソウ、チョウジソウ、ノカラムツなどの特徴ある植物群落が見られる。また、元荒川や古利根川水系の堰部にはキタミソウを代表とする、特異な生活形を持つ草本植物群落が見られる。

埼玉県希少な植物群落一覧表①（木本）

番号	群落名	主な分布地	選定基準							
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧	H 学術重要
単一群落										
1	アカガシ群落	飯能市			○		○		○	○
2	アラカシ群落	鳩山町、長瀨町、皆野町他	○				○			
3	ウラジロガシ群落	飯能市、東松山市、秩父市他	○		○	○	○		○	
4	シラカシ群落	さいたま市、富士見市、神川町他					○		○	
5	スダジイ群落	越谷市、越生町、さいたま市他	○		○		○			○
6	タブノキ群落	毛呂山町、越生町他	○		○				○	
7	ツクバネガシ群落	ときがわ町、飯能市			○		○		○	
8	ヤマグルマ群落	秩父市、小鹿野町				○				
9	アカマツ群落	加須市、東松山市、長瀨町他					○		○	○
10	ウラジロモミ群落	秩父市、小鹿野町	○						○	
11	カヤ群落	飯能市				○				
12	クロベ群落	秩父市	○			○				
13	サワラ群落	秩父市				○				
14	ツガ群落	秩父市	○			○				
15	ヒノキ群落	横瀬町、秩父市、小鹿野町	○		○	○	○		○	
16	モミ群落	飯能市、越生町、秩父市他	○				○		○	
17	アカシデ群落	さいたま市、秩父市、小鹿野町他				○	○			
18	アサダ群落	秩父市		○		○			○	
19	イヌシデ群落	川口市、さいたま市、北本市					○		○	○
20	イヌブナ群落	飯能市、秩父市、小鹿野町	○						○	
21	オニグルミ群落	横瀬町、小鹿野町						○		○
22	クスギ群落	さいたま市、鴻巣市、横瀬町					○	○		○
23	クマシデ群落	飯能市、横瀬町				○				
24	クリ群落	ときがわ町、長瀨町、皆野町他					○			○
25	ケヤキ群落	飯能市、秩父市、小鹿野町他				○	○			○
26	コナラ群落	さいたま市、所沢市、秩父市他					○	○		○
27	サワグルミ群落	秩父市				○				
28	シオジ群落	秩父市	○	○		○			○	
29	チチブミネバリ群落	秩父市、小鹿野町	○	○	○	○			○	○
30	トチノキ群落	秩父市、神川町				○	○			○
31	ブナ群落	飯能市、秩父市	○			○			○	
32	ミズナラ群落	飯能市、ときがわ町、秩父市他	○							
33	ヤエガワカンバ群落	横瀬町		○	○	○			○	○
34	イヌコリヤナギ群落	秩父市、横瀬町他				○				
35	タチヤナギ群落	秩父市、横瀬町他				○				
36	ネコヤナギ群落	長瀨町、皆野町他				○	○			
37	アカメヤナギ群落	さいたま市、上尾市他				○				
38	カワヤナギ群落	長瀨町、皆野町他				○				
39	ハンノキ群落	さいたま市、川越市、鴻巣市				○				○

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準								
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧	H 学術重要	I 地域文化
40	オオシラビソ群落	秩父市	○								
41	カラマツ群落	秩父市				○					
42	コメツガ群落	秩父市、小鹿野町	○			○				○	
43	シラビソ群落	秩父市	○								
44	トウヒ群落	秩父市	○								
45	フサザクラ群落	秩父市、小鹿野町				○					
46	カラスザンショウ群落	秩父市				○				○	
47	イワシモツケ群落	秩父市、小鹿野町	○	○	○	○			○	○	
48	ハコネコメツツジ群落	秩父市、小鹿野町	○	○	○	○				○	
49	ヒカゲツツジ群落	東秩父村	○		○	○			○		
50	ウラジロヒカゲツツジ群落	秩父市、小鹿野町	○	○	○				○	○	
51	ダケカンバ群落	秩父市、小鹿野町				○					
52	ハイマツ群落	秩父市	○	○		○				○	

埼玉県希少な植物群落一覧表②（草本）

番号	群落名	主な分布地	選定基準									備考	
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧	H 学術重要	I 地域文化		
山地草原													
1	クリンソウ群落	秩父市	○	○						○			
2	サンリンソウ群落	秩父市	○	○						○			
3	マツムシソウ群落	秩父市					○			○			
4	ヤマドリゼンマイ群落	秩父市, 飯能市, 横瀬町, 皆野町								○			
5	レンゲショウマ群落	秩父市, 小鹿野町, ときがわ町他	○	○						○			
石灰岩上, 岩隙群落													
1	イチョウシダ群落	秩父市, 小鹿野町		○		○				○			
2	イワウラジロ群落	小鹿野町		○		○				○	○		
3	ウスユキソウ群落	秩父市				○							
4	オオビランジ群落	秩父市, 小鹿野町		○	○	○							
5	キバナコウリンカ群落	小鹿野町		○	○	○				○	○		
6	キンモウワラビ群落	秩父市, 小鹿野町, 長瀬町, 寄居町				○							
7	クモノスシダ群落	秩父市, 小鹿野町, 長瀬町, 毛呂山町他								○			
8	シラヒゲソウ群落	秩父市, 小鹿野町				○				○			
9	タカネコウリンカ群落	秩父市		○		○				○			
10	チチブイワザクラ群落	横瀬町		○	○	○				○	○	○	チチブイワザクラ ミヤマスカシユリ群落
11	チチブリンドウ群落	秩父市		○	○	○				○	○		
12	トガクシデンダ群落	秩父市				○							
13	ヒメシャガ群落	秩父市		○		○				○			
14	ビランジ群落	秩父市		○		○							
15	ホソバトリカブト群落	秩父市, 小鹿野町, 横瀬町				○				○			
16	ホソバノツルリンドウ群落	秩父市		○		○				○			
17	ホタルサイコ群落	秩父市, 小鹿野町				○							
18	ミヤマウラジロ群落	秩父市, 小鹿野町, 皆野町, 長瀬町								○			

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準							備 考		
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧		H 学術重要	I 地域文化
19	ミョウギシャジン群落	秩父市,小鹿野町				○						
20	ムシトリスミレ群落	秩父市		○		○			○			
21	ヤツガタケナズナ群落	秩父市		○		○			○			
岩上,岩隙群落(石灰岩を除く)												
1	アオネカズラ群落	越生町		○	○				○	○		
2	イワヒバ群落	秩父市,小鹿野町,皆野町									○	
3	ウチョウラン群落	秩父市,小鹿野町	○	○					○		○	
4	ウラハグサ群落	長瀨町,皆野町,小鹿野町				○						
5	クモイコザクラ群落	秩父市	○	○	○				○			
6	コイワザクラ群落	小鹿野町	○	○	○				○			
7	コタヌキラン群落	小鹿野町	○	○		○			○			
8	ジンジソウ群落	秩父市,小鹿野町,横瀬町,飯能市									○	
9	ダイモンジソウ群落	秩父市,小鹿野町,横瀬町									○	
10	タヌキラン群落	秩父市,長瀨町		○	○	○			○	○		
11	ツメレンゲ群落	秩父市,小鹿野町,皆野町,長瀨町									○	
12	ノコギリシダ群落	毛呂山町		○					○			
13	ヒメシャジン群落	秩父市,小鹿野町	○	○					○			
14	ヒモカズラ群落	秩父市	○	○					○			
15	マツバラン群落	秩父市		○					○		○	
16	ミヤマウラボシ群落	秩父市	○						○			
17	ミヤマシャジン群落	秩父市,小鹿野町	○	○					○			
18	ミョウギシダ群落	秩父市		○					○			
19	ムカデラン群落	秩父市,皆野町		○					○	○		
20	ムギラン群落	寄居町		○					○	○		
川原,礫原草本群落												
1	イヌハギ群落	熊谷市,長瀨町,皆野町他				○			○			

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準							備 考		
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧		H 学術重要	I 地域文化
2	カワラアカザ群落	秩父市,熊谷市,小鹿野町		○		○				○		
3	カワラケツメイ群落	秩父市,小鹿野町,ときがわ町他		○		○				○		
4	カワラサイコ群落	熊谷市,本庄市,深谷市他				○						
5	カワラナデシコ群落	秩父市,小鹿野町,熊谷市,他				○					○	
6	カワラニガナ群落	熊谷市,深谷市,神川町他		○		○				○		
7	カワラヨモギ群落	秩父市,熊谷市,深谷市他		○		○						
8	シラン群落	秩父市,長瀨町		○		○					○	
山麓湿地群落												
1	ザゼンソウ群落	秩父市,飯能市,横瀬町		○		○						
2	サワギキョウ群落	坂戸市		○						○	○	
3	ヒメザゼンソウ群落	入間市		○		○				○		
4	ミミカキグサ群落	日高市,寄居町										絶滅
5	モウセンゴケ群落	寄居町,鳩山町		○								
低層湿原, 艇水植物群落												
1	オニナルコスゲ群落	上尾市,桶川市		○								
2	カキツバタ群落	加須市		○		○				○	○	
3	コキツネノボタン群落	加須市,幸手市,吉川市		○								
4	コツブヌマハリイ群落	桶川市,川島町,滑川町		○						○		
5	サクラソウ群落	さいたま市,桶川市		○			○			○	○	
6	タコノアシ群落	さいたま市,戸田市,寄居町,長瀨町他								○		
7	チョウジソウ群落	さいたま市,桶川市,加須市,伊奈町他								○	○	
8	トキソウ群落	加須市		○		○				○	○	
9	トネハナヤスリ群落	吉川市,加須市		○	○							
10	ヌマトラノオ群落	さいたま市,加須市,熊谷市,上尾市他				○						
11	ノカラマツ群落	さいたま市,吉川市,加須市,上尾市他				○						
12	ハナムグラ群落	さいたま市,上尾市,加須市,吉川市他				○						

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準							備 考		
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧		H 学術重要	I 地域文化
13	ヒメゴウソウ群落	飯能市,東松山市,長瀬町他		○								
14	ヒメシオン群落	加須市		○					○			
15	ヘラオモダカ群落	所沢市,入間市,日高市,上尾市他							○			
16	ミクリ群落	熊谷市,坂戸市,寄居町他				○						
17	ミズオトギリ群落	日高市,加須市,坂戸市他		○					○			
18	ヤマアゼスゲ群落	飯能市,入間市,嵐山町,ときがわ町他		○								
19	ヨシ群落	加須市,吉川市,さいたま市他								○		マイヅルテンナンショウ,タチスミレなどを含む群落
路傍・林縁草本群落												
1	アズマイチゲ群落	秩父市,長瀬町,小川町,ときがわ町他									○	
2	アマナ群落	秩父市,入間市,さいたま市,ときがわ町他									○	
3	イカリソウ群落	秩父市,皆野町,所沢市,さいたま市他									○	
4	イチリンソウ群落	秩父市,横瀬町,小川町,新座市他									○	
5	カタクリ群落	秩父市,長瀬町,飯能市,小川町他					○				○	
6	キバナノアマナ群落	秩父市,寄居町,本庄市,ときがわ町							○			
7	クマガイソウ群落	さいたま市		○			○				○	
8	サイハイラン群落	熊谷市,入間市,寄居町,長瀬町他							○			
9	ステゴビル群落	秩父市,坂戸市,毛呂山町,越生町		○					○		○	
10	セツブンソウ群落	秩父市,横瀬町他							○		○	
11	セリバオウレン群落	日高市,越生町	○			○						
12	ヒロハノアマナ群落	飯能市,入間市		○					○		○	
13	ヒガンバナ群落	日高市,幸手市					○				○	
14	フクジュソウ群落	秩父市,皆野町,神川町他		○					○		○	
15	ヤマブキソウ群落	秩父市,長瀬町,横瀬町,東秩父村他							○			
水辺・短命草本群落												
1	キタミソウ群落	さいたま市,越谷市,加須市,熊谷市他			○					○	○	
2	コギシギシ群落	越谷市,春日部市,吉川市,久喜市他							○			

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準							備 考	
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧		H 学術重要
3	シロガヤツリ群落	さいたま市,越谷市							○		
4	ヌカボタデ群落	三郷市		○					○		
5	ノウルシ群落	さいたま市,上尾市,桶川市,加須市他					○			○	
6	ホソバイヌタデ群落	三郷市,吉川市,加須市							○		
水田雑草群落											
1	アギナシ群落	日高市		○					○		
2	アゼトウガラシ群落	川越市,上尾市,嵐山町,鳩山町他		○					○		
3	コイヌガラシ群落	加須市,行田市,久喜市,春日部市他							○		
4	サワトウガラシ群落	東松山市,宮代町		○					○		
5	ハタケテンツキ群落	鴻巣市,北本市		○							
浮葉植物群落											
1	アサザ群落	さいたま市,越谷市,春日部市,加須市他								○	
2	オニバス群落	加須市		○						○	
3	ガガブタ群落	久喜市							○		
4	コウホネ群落	さいたま市,加須市,坂戸市,伊奈町他							○		
5	ジュンサイ群落	日高市									絶滅
6	デンジソウ群落	加須市							○	○	
7	ヒシ群落	加須市,久喜市,蓮田市,川島町他							○		
8	ヒメシロアサザ群落	行田市,久喜市,熊谷市,加須市		○	○				○		
9	ヒルムシロ群落	加須市,行田市,熊谷市,神川町他		○							
沈水植物群落											
1	クロモ群落	熊谷市,深谷市,本庄市		○					○		
2	コウガイモ群落	行田市,羽生市,加須市,久喜市他							○		
3	セキショウモ群落	行田市,羽生市,加須市,久喜市他							○		
4	バイカモ群落	熊谷市		○					○		
5	ミズオオバコ群落	加須市,行田市,さいたま市,本庄市他							○		
6	ミズニラ群落	日高市,越生町,ときがわ町,宮代町他		○					○		

番号	群 落 名	主 な 分 布 地	選 定 基 準							備 考	
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧		H 学術重要
浮水植物群落											
1	イヌタヌキモ群落	さいたま市									絶滅
2	サンショウモ群落	熊谷市,行田市,本庄市,宮代町他						○			
3	タヌキモ群落	羽生市		○				○			
4	ヒンジモ群落	羽生市									絶滅
5	ムジナモ群落	羽生市		○			○	○	○	○	
つる植物群落											
1	カザグルマ群落	秩父市,皆野町,長瀨町,寄居町他		○				○			
2	トリガタハンショウヅル群落	秩父市		○				○			
3	ミヤマハンショウヅル群落	秩父市						○			
ススキ・シバ群落											
1	クチナシグサ群落	新座市,所沢市,入間市,川越市他						○			
2	スズサイコ群落	秩父市,長瀨町						○			
3	セイタカヨシ群落	さいたま市,久喜市,加須市		○				○			
シダ草原											
1	ウラジロ群落	飯能市,日高市,毛呂山町,越生町,ときがわ町他			○			○		○	
2	オオバノハチジョウシダ群落	日高市,毛呂山町		○							
3	コシダ群落	飯能市,毛呂山町,越生町		○				○			
4	コモチシダ群落	秩父市		○				○			
5	ナチクジャク群落	飯能市		○				○			

埼玉県希少な植物群落一覧表③（群落複合）

番号	群落名	所在地	選定基準								
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧	H 学術重要	I 地域文化
1	井戸山の森林	長瀨町・皆野町				○	○	○		○	○
2	龍泉寺の社寺林	飯能市			○		○				○
3	中双里の森林	秩父市	○			○			○		
4	長尾根の中間温帯林	秩父市・小鹿野町				○	○			○	
5	狭山丘陵の雑木林	所沢市・小鹿野町					○	○			○
6	雑木林（三芳町）	三芳町					○	○			○
7	多福寺の平地林	三芳町					○	○			○
8	両神山山足部の早春植物群落	小鹿野町		○		○	○				
9	ブナ峠の森林	ときがわ町				○	○				
10	和名倉山の森林植生	秩父市	○								
11	両神山の亜高山性植物群落	小鹿野町	○								
12	木賊山・甲武信岳・三宝山のシラビソ-オオシラビソ林	秩父市	○							○	
13	荒川源流域のブナ-イヌブナ林	秩父市	○							○	
14	長瀨の溪畔岩上の植生	長瀨町、皆野町		○		○	○		○	○	
15	荒川の源流域の溪畔林	秩父市	○	○		○	○			○	
16	加須の浮野とその植物群落	加須市		○		○	○		○	○	○
17	黒浜沼湿性植物群落	蓮田市					○		○		
18	武甲山石灰岩地の森林	秩父市	○	○		○			○	○	
19	蟬指石灰岩地の森林	飯能市		○		○			○	○	
20	二子山石灰岩地の森林	小鹿野町	○	○		○			○	○	
21	妙法岳石灰岩地の森林	秩父市	○	○		○					
22	豆焼沢石灰岩地の植物群落	秩父市	○	○		○				○	
23	釜伏山の早春植物群落	寄居町		○		○					
24	両神山滝前のツツジ群落	小鹿野町				○					
25	田島ヶ原サクラソウ自生地	さいたま市					○			○	○
26	村国湿性草本植物群落	さいたま市					○	○			○
27	赤坂沼湿性植物群落	さいたま市					○	○			○
28	末田須賀堰冬期湿性植物群落	さいたま市					○			○	○
29	元荒川水源域の水生植物群落	熊谷市					○	○			○
30	「三ヶ尻観音山」のユリ科多年草群落	熊谷市					○				○
31	荒川河川敷の河原植物群落	熊谷市					○		○		○
32	原井の江袋沼及びその上流の季節草原	熊谷市					○				
33	星川斎条堰の河辺季節植物群落	行田市					○				○
34	石間の早春植物群落	秩父市					○				○
35	三国尾根梓白岩石灰岩地の植物群落	秩父市		○		○			○		
36	十文字峠石灰岩地の植物群落	秩父市		○		○			○		
37	中津川金山沢出合石灰岩壁の岩壁植生	秩父市		○		○			○		
38	加治丘陵北縁の早春植物群落	飯能市					○				○
39	カタクリ、イカリソウの群落	飯能市					○				○
40	天覧入りの湿性植物群落	飯能市					○	○			○

番号	群 落 名	所 在 地	選 定 基 準								
			A 原生自然	B 極めて希	C 分布限界	D 特殊立地	E 郷土景観	F 人工放置	G 絶滅危惧	H 学術重要	I 地域文化
41	渡良瀬川河川敷湿性植物群落	加須市		○				○		○	
42	飯沼湿性植物群落	春日部市				○	○				○
43	宝蔵寺沼ムジナモ自生地の植物群落	羽生市		○		○	○		○	○	○
44	荒川旧流路の水生植物群落	鴻巣市,北本市,吉見町,桶川市					○				○
45	葛西用水冬期湿性植物群落	越谷市				○	○				○
46	古利根堰冬季湿性植物群落	越谷市,松伏町				○	○				○
47	大谷戸湿地の植物群落	入間市					○	○			○
48	西久保湿地の植物群落	入間市					○	○			○
49	荒川河川敷上内間木地域の植物群落	朝霞市					○				○
50	漆台の林床植物群落	和光市					○				○
51	妙音沢斜面の早春植物群落	新座市					○				○
52	江川下流域湿性植物群落	桶川市,上尾市					○				○
53	狐塚付近の中川河川敷植物群落	久喜市				○	○		○		
54	宝泉池周辺の湿性植物群落	久喜市					○	○	○		○
55	高尾宮岡の景観地	北本市					○				
56	城山下の高麗川崖の岩壁植生	坂戸市				○					
57	江戸川河川敷植物群落	吉川市,三郷市							○	○	
58	獅子ヶ滝の暖地性シダ植物群落	毛呂山町			○						○
59	黒山の特殊植物群落	越生町		○	○						○
60	大高取山の暖地性シダ植物群落	越生町			○						○
61	三ツ又沼及びその周辺湿地の植物群落	川島町,上尾市,川越市					○				○
62	両神山山稜岩場の岩壁着生植物群落	小鹿野町,秩父市		○		○					
63	長瀨の溪畔岩上植物群落	長瀨町,皆野町					○				○